現地指導に見る
指導者の風貌

現地指導に見る
指導者の風貌

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ108(2019)

まえがき

朝鮮人民の最高指導者金正恩（キムジョンウン）委員長は、人民の美しい夢、理想を実現すべく、現地指導をたゆみなく続けている。

国の指導に乗り出して幾年も経たずに委員長はこの地に、文字通りの日進月歩、人民の幸福が恍惚たる現実として目前に広がる、繁栄する新しい時代を現出させた。

偉大な金正恩時代が展開する目覚しい飛躍、奇跡の歴史には、万難試練に打ち勝った朝鮮人民に社会主義よろずの幸をめぐらすべく、現地指導の道をうまずたゆまず歩き続ける委員長の熱情あふれる献身と、不滅の革命指導の行跡が歴々と刻まれている。

今も委員長は、朝鮮労働党に私心なく従う人民の真情を革命の無上の宝として重視し、勇敢で知恵深く、心の美しい人民のため、万難にひるまず、いばらの道を踏み越えて、素晴らしい未来のすべてをたぐり寄せずにはおかぬとの決意を抱き、祖国と人民に尽くす献身の一路を歩んでいる。

金正恩委員長の現地指導、祖国と人民に対するこよなき愛の物語を紹介すべく本書の執筆が企図されたとはいえ、この一書をもってその全貌を描出することは到底不可能である。ただ、一滴のしずくに全宇宙が映るという格言を念頭に、委員長が現地指導の途上に残したかずかずの逸話を通して、その政治哲学、指導哲学の深奥の一端なりとも感得していただければという一縷の望みを託して、執筆に乗り出す運びとなった。

本書が金正恩委員長の偉人的風貌を全面的に描出しえないとして

も、朝鮮の最高指導者について、指導者を父親のように信じ従う人民について、読者のみなさんが知り、認識を深めることに役立つならば、本書の執筆者にとっては望外の喜びである。

目　　次

1. 人民に対する滅私奉仕の精神

· 改めて装置されたエレベーター
· 花の絨毯を敷いてやりたい心情
· 満足などはあり得ない
· 神秘な海の世界へ
· 「改めてお伺いします」
· 軍の馬場を大衆乗馬サービス場に
· 労働者の素晴らしい宮殿
· 農場都市
· わが党の不動の意志
· 北辺戦域の一大変貌

改めて装置されたエレベーター

2009年８月17日早朝、金正恩委員長は普通江(ポトン)商店を視察した。

商店の支配人と挨拶を交わして店内を見て歩いた委員長は、２階へ上がる階段の前で足を止め、商店に必要なエレベーターの有無を尋ねた。

支配人は、当商店には作業用エレベーターが備わっています、と答えた。しかしそれは質問の意図をはき違えた返答だった。

質問の真意は店員用のものでなく、買い物客用のエレベーターがあるのかということだったのである。

しばし黙然としていた委員長は、先に立って階段を上がりながら、普通江商店にエレベーターがないなら、客が買い物袋を二つも三つも手に掲げて階段を上がり下がりするのはしんどかろうが、と呟くように言った。

七面鳥肉の売り場で陳列品を見ていた委員長は、七面鳥の重さはどれほどになるのかと尋ねた。

５ないし14キロほどだと聞いては、そんなに大きなものをどう持って歩けるのか、米袋のように担いでいくわけにもいかなかろうし、と荷を肩に担ぎ上げる仕草をしてみせた。

まわりの人たちはくすくすと笑った。

けれども支配人は笑えなかった。委員長がエレベーターの有無や七面鳥の重さなどをことさらに質問した意味の重さに気づいたからであった。

その時一人の関係幹部が、傍らの手押し車を押し売り場の中へ入って１羽の七面鳥肉を乗せて、客がこのように品を乗せて１階

まで降りていけるよう手配しますと説明した。

　手押し車の取っ手をつかんで押したり引いたりしてみた委員長は、残念そうに、商店にエスカレーターを設けるとしても、手押し車に自転車のようなブレーキがないと役には立たない、こんな手押し車は売り場でしか利用価値がない、店内にエレベーターを装置しなければ、として具体的な対策を教えた。

　その後、商店にはエレベーターが設けられた。

花の絨毯を敷いてやりたい心情

　2012年５月１日、金正恩委員長がある工場を視察した時の話である。

私が力の限り手助けしよう

　工場に到着し、出迎えた工場幹部たち一人ひとりの手を取った委員長は、両手を腰に当てて、新築されたばかりの強盛院（カンソン）の全景にしばらく目を凝らした。

　当工場の総合的な文化・厚生センター強盛院は、ほかならぬ委員長の大いなる温情を得て竣工したのであった。

　振りかえって見ると、工場が強盛院の建設を決心し、工事に着手したのは数年も前のことだった。が、いざ工事を始めてみると、持ち上がる隘路は一、二にとどまらなかった。建物の骨組みまではどうにかこうにか進んだが、その後は遅々として進捗せず、なかんずく手間の大きくかかる内装工事は酷寒を前にして自力で推し進めるめどが立たず、手を染めることすらできずにいた。

こうして年が改まった１月のある日、当工場を訪れ生産現場をいちいち見て歩いた委員長は帰途を前にして、工場が今自力で強盛院を建設しているとの報告を受けた。

歩みを止めて、しばらく骨組みだけが建っている建設現場を見渡し、内部の壁塗りは行ったのかと尋ねた。

まだ着手できないでいるという答えに、内装工事こそが基本だ、まだまだ大きな手間がかかるだろうに、と呟くように言った。

建設の進行状況を具体的に聞いた委員長は、どう考えても建設を工場自体の力で完了するのは容易でなかろうとして、じっと考えた後、強盛院の設計図を持って帰り検討したうえで、自分が責任を持って工事を完成させる、人民軍の有力な部隊を投入し、最上の素晴らしい建物として仕上げよう、私が力の限り手助けするから、工場の近代化、建物の近代化については一切ためらわずに見積もりを立てて提起するようにと言った。

こうして、プール、大衆浴場、食事室、体育館、理髪室、美容室などを備えた延べ建築面積1万余㎡もの強盛院は、わずか３カ月にして落成したのである。

気にすることはない

うむ、立派な出来栄えだ、早速内部を見ることにしよう、こう言って足を踏み出した委員長は、すぐ後に従う建設担当人民軍部隊の指揮官たちを振り返り、**工場の人たちを先立たせなさい、君たちは後ろに控えて**、と制し、工場の幹部と並んで中へ入った。

工場の一幹部が、軍人たちよりも自分たちを重く見ることに痛く恐縮して、部隊の人たちが最高司令官同志の命令を貫くべく昼夜を分かたず奮闘したおかげです、と説明した。

この言葉に委員長は大きくうなずきながらも、軍隊が人民に奉

仕するのは当然なことだから気にすることはない、と答えた。

１階の浴場を見て歩いていた時も、工場の幹部がまた、今度建設に当たった軍人たちが主人らしく実に立派に働いたとたたえたが、委員長は、労働者たちの生活に第一の関心を払うのはわが党の意図であり、軍隊は最高司令官の命令を貫いただけであると言った。そして、工業部門の党組織は工場を近代的につくり上げ、文化施設も手落ちなく具備して労働者たちが何不自由なく過ごせるよう心がけ、全国すべての工場に強盛院の模範を一般化するよう強調した。

労働者たちが喜ぶだろう

体育館の視察中、こんなに素晴らしい厚生施設を贈ってくださって本当に有難うございます、という工場の幹部に向かって委員長は、そんなことには構わず、ばりばり増産に励めばそれまでだと言ってこう続けた。

「私はここへ来ると自ずと金正日（キムジョンイル）同志のことが思い浮かびます。金正日同志が心をこめて育て、私に残してくださったわれわれの労働者たちではありませんか。当工場労働者のために工場構内に花の絨毯を敷いてやりたいというのが私の心情です」

そして、随員たちを見回して、「本当に素晴らしい。労働者たちがどんなに喜ぶことだろうか」と満足げに言った。

強盛院の内部をすべて見終わった委員長は、ここの従業員たちを呼んで一緒に記念写真を撮ることにしようと言った。

知らせを受けた従業員たちは、我先に持ち場から飛び出してきた。

嬉しさのあまり、しずくの滴る水泳着を着替えるいとまもなく、その上に作業着を引っ掛けて走り出してくる管理員、喉がかれんばかりに万歳、万歳を連呼しながら階段を駆け下りる理髪師……。委員長は、危ない、危ない、倒れちゃ大変だ、ゆっくり

歩いてくるんだ、と制した。

目に涙を浮かべて委員長の腕にすがる女性、もっと近くに立とうと押し合いへし合いする人たちにもまれて懸命に背伸びをする娘……。

委員長は、強盛院の女性たちはみななんて力持ちなんだろうと言って、一同を大笑いさせた。

委員長は、早く写真を撮ろう、みんなで一緒にねと促し、従業員たちに囲まれて記念撮影を行った。

満足などはあり得ない

古い昔から柳の並び立つ麗しい都だとして柳京(リュギョン)と呼び習わされてきた平壌(ピョンヤン)市の大同(テドン)江のほとりの明媚の地に、ヘルスセンター柳京院が建設されていた。

地下１階を含む4階建ての柳京院は、大衆浴場、家族風呂、個人風呂、リハビリ運動ルーム、理髪室、美容室、娯楽場、食堂、清涼飲料店、地下ガレージなどを備え、日に7200人内外の収容能力を持つ施設である。

建物の竣工後に見ないでは分からない

2012年５月24日、金正恩委員長は建設現場を視察した。

柳京院全景図の前で解説を受けた後、大衆浴場に案内された委員長は、ふと足を止めて、浴槽の座り台に目を凝らした。ややあって案内者を振り返り、座り台のふちが鋭い直角を成している、それでは入浴者が傷つかないとも限らないから、丸味を帯びてつくり直すよう指摘した。

ついで２階へ向かった。

まだ手すりの仕上がっていない階段を危ぶむ風もなく上がっていた委員長は、手すりが木製であることに気付き注意を与えた。

この建物の内部は湿度が高いだろうから、手すりは木製にせず、石材かステンレスパイプを使用すべきだ、手すりが壁側にもつけられてあるが、これは蛇足に過ぎない、手すりは、階段のふちから足を踏み外して転落するのを防ぐために設けるのだから、壁側にまで取り付ける必要はない、と。

委員長は、塩サウナ浴室など幾室ものサウナ浴室をいちいちのぞき、サウナの味わいを満喫しうるよう、各室に発光素子のような寒色灯を設置すると良い、それに必要な資料を提供しようと言った。

男女個人風呂の前で委員長は、男子用個人風呂の入り口の横に、中をのぞくことができないようにしながらも立体感が際立つようガラスブロックで壁をつくってあるのを見て、これはなかな

かいい趣向だ、これを自慢したくて私をここへ連れてきたのではないか、と笑って言った。

長い時間をかけて柳京院の建設現場を丹念に見て歩いた委員長は、これくらいなら柳京院の建設は申し分ないようだ、けれども実際に建設が立派にできたかどうかは、建物の竣工後に見ないでは分からぬはずだと言った。

委員長は、やがて柳京院が完成すれば、人民に豊かな物質・文化生活を享受させようと気苦労の絶えなかった金正日同志の遺訓をまた一つ全うすることになる、と言ってたいそう喜んだ。

人民の真のサービスセンターに

それから数カ月経った７月26日、金正恩委員長は再び建設現場を訪れた。

じっとしているだけでも背中に汗が流れる酷暑の時節である。

この日、室温が90度もの乾式サウナ室に入った委員長は、壁にめぐらされたガラス製の壁をなでてみながら、ガラスの継ぎ目に張られたアルミ帯の幅が狭すぎる、継ぎ目に大幅の帯を当ててシ

リコンを吹き付けると壁飾りにもなり、熱損失の防止にも役立つと教えた。

ついで処々を見て歩きながら以下のように指摘した。

・美顔室がまるで病院の診療室のようだ。総合美顔器に拡大鏡が付いているが、これは客の顔面を拡大して皮膚の状態を見るようにしたものなんだろう。ところで、この総合美顔器の使用法をみな確実にわきまえているのだろうか。客の顔をきれいにするつもりが、かえってあばたをつくってしまったら大変だ。誰であれいったんこの部屋へ入ったら、きれいな顔に仕上げて帰さなければいけない。

・冷室の温度がマイナス7度まで下がるというが、まるで漁場で捕ったマグロを貯蔵する冷凍倉庫みたいだ。床と壁を仕上げ材をもってきれいに装うべきである。今のままでは、客が入浴を終えても、気味が悪くて冷室へは入ろうとしないだろう。これはどう見ても魚の冷凍倉庫だというほかない。

・家族風呂受け付けの壁に風呂の利用秩序の注意書きを入れた額縁が掲げられてあるが、遠目には何かの表彰状のように見える。利用秩序の注意書きのようなものは文字通りに、利用秩序や注意事項などを、絵入りで平明かつ直観的に理解できるよう作成すべきであ

る。ここへは外国人もやってくるだろうから、彼らも注意書きを見て一目瞭然と理解できるよう、国際的に広く通用する直観的な標識を使用することだ。たとえば、１本のタバコの上にばってん「ｘ」を入れた絵は禁煙を指示したものだと誰でも分かるように、直観的に理解できる絵や記号などをもって表示するとよい。

深い感動に包まれている周りの人たち一人ひとりの手を取って、委員長は強調した。

「人民のためのことでは満足というものはあり得ないと強く自覚して、竣工する最後の日まで工事に最善を尽くすことです。

わが党が人民に抱かせる贈り物である柳京院を一点の瑕もなく仕上げ、柳京院が人民の開けた幸福な生活につながる、人民の真のサービスセンターになるようにしなければなりません」

神秘な海の世界へ

金正恩委員長は2012年６月30日、開館を間近にした綾羅（ルンラ）イルカ館を２度目に視察した。

２カ月前の４月30日、当館の建設を現地指導し、綾羅イルカ館を人民の文化生活センターの一つとして立派に仕上げるべく細心の注意をめぐらした委員長は、この日、開館の準備状況を確かめるために再び建設現場を訪れたのであった。

現地幹部の案内を受け中央ホールを通り抜けて観覧席に入り、公演水槽の欄干の前に立った時である。

それまでさざなみ一つ立てず静まり返っていた水面がにわかに揺れ動いたかと思うと、何頭ものイルカが姿を現して芸をふるい始めた。

１対のイルカは波を立てて委員長の前へまっすぐに近づき、全身を水面上に立ててお辞儀さえした。

元来知能が高くて神経の敏感なイルカは、その生息地をほかへ移されると、周りを警戒して普通1週間、長い場合は３週間ほども身動き一つせず、餌も食べないと言われている。そんなわけで、イルカが当館に移されて数日しか経っていないこの日、調教師たちは残念な思いでいらいらせざるを得なかった。

ところがなんと、イルカの群れは委員長の来訪を喜び迎えているかのように水面上に現れて、特技を披露したのである。

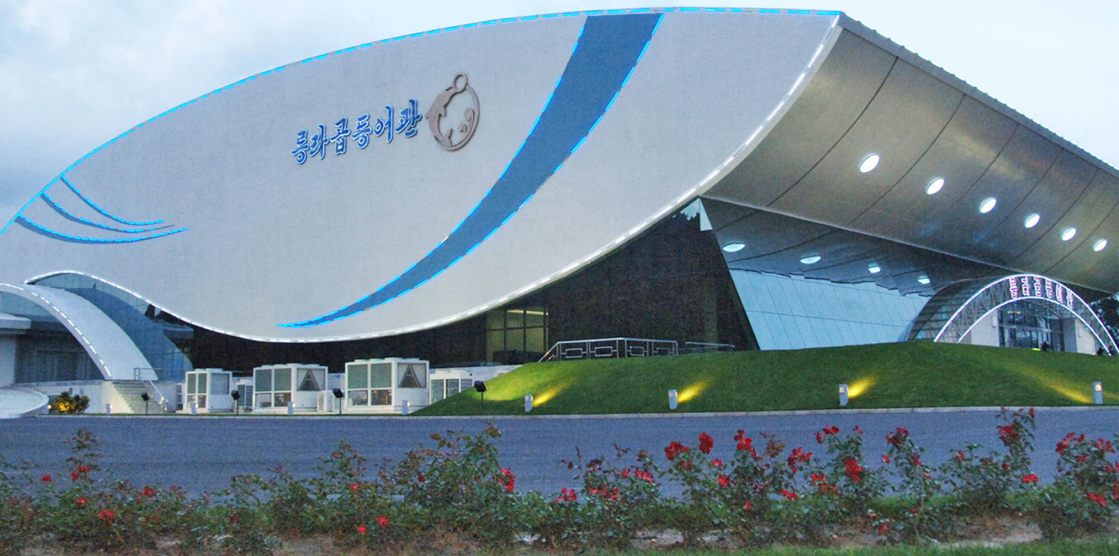
驚き、目を見張る人たちを見回した委員長は、イルカどもが外国の狭苦しいイルカ館から、ずっと広くて環境も申し分のない綾羅イルカ館に移されて大喜びしているのだろう、と言って豪快に笑った。

委員長は、イルカには毎日新鮮な魚を与えうるよう確かな対策を立てるべきだ、イルカに「苦難の行軍」を強いてはならない、イルカには自意識というものがないから、「苦難の行軍」をしてまで人間に奉仕しようなどとはしないだろう、と笑って言った。

ユーモアたっぷりなその言い草に人々は笑ったが、そこには、餌の問題を決してゆるがせにすべきでないとことさらに強調する、深い意図がこもっていた。

ついで委員長は綾羅イルカ館の室温が高すぎる、今こうして綾羅イルカ館内に立ってみると、海の世界にひたったような感じはするが、室温があまりにも高くて息苦しいほどだ、こんな状態では公演を汗だくで観覧する羽目になろうと言った。

関係幹部が室温を24度内外に保ちたいという意見を述べると、委員長はうなずき、**「綾羅イルカ館は公演の準備を手落ちなく行い、７月末頃案内放送をもって『蒸し暑い真夏を迎え、平壌市民を神秘な海の世界へお誘いいたします』と紹介して公演の幕を開ければ、またとない優れた雰囲気をかもし出せるでしょう」**と助言した。

最後に委員長は、今日綾羅イルカ館を見て歩いたところでは、今なおちょっと心残りのする部分がある、間もなく綾羅イルカ館の開館式が挙行されるが、その後は１年365日休みなく運営するこ

とになるのだから、全般的な検討を行い、不備な箇所は残らず手を加え、瑕一つなく仕上げるのだ、と強調した。

それからしばらく経った2012年7月25日、綾羅イルカ館は竣工した。

「改めてお伺いします」

2012年9月4日、金正恩委員長は、倉田(チャンジョン)通りの新築の住宅を配当されて入居間もない、金日成(キムイルソン)青年栄誉賞受賞者である労働英雄文江順(ムンガンスン)さんの家庭を訪問した。

新居入りした金正淑(キムジョンスク)平壌紡織工場の労働者文江順さんと夫君金赫(キムヒョク)さんをお祝いしたくて伺いました、と挨拶した委員長は、愛娘の家にでもやってきたかのようにこだわりなく部屋に入った。

夫婦はろくに挨拶を返せずもじもじしていた。各部屋をいちいち見て歩いた委員長は居間の壁に掲げてある、金正日総書記をお迎えして撮った記念写真に目を止めて立ちとまった。

夫婦が共に総書記と記念撮影をし、婦人は労働英雄称号を授かっている上、こんな立派な住宅に入居したのだから、お二人は本当に幸せ者だ、こう言った委員長は、新居入り後ご両親たちの訪問を受けたのかと尋ねた。

妻の方は二親とも既に亡くなっており、自分の肉親は他地方に住んでいてまだ来てはいないという夫の答えに、それはどうも残念だ、お二人がこんな立派な家に住んでいる様子を撮影して早くテレビで放映するとよい、ご両親がそれをご覧になればとても喜ぶだろうと述べた。そして委員長は、金正日同志が存命しておられたら、今日、新居入りしたこの家を一緒に訪れて祝福し、心から喜びを共にされただろうにと呟くように言った。

倉田通りの住宅に新居入りした文江順の家庭を
訪問する金正恩委員長

その後、ざっくばらんにあぐらをかいた委員長は、今日は新居入りしたお二人を祝うべく訪ねてきたのだから、お酒を１献ずつ差し上げようと言った。

文江順さんが妊娠中だと知ると、江順さんには形ばかりでも受け取ってもらいましょうとして、身ごもってどれほどになるのかと尋ねた。

３カ月になります、と顔を赤らめはにかむ彼女から夫の方に目を向け、このころはやがて生まれる子が男か女かとしきりに考えていようが、一般に夫たるものは男の子を欲しがるけれど、どちらを望んでいるのかね、と尋ねた。

紡織工英雄である母親に似た娘を授かればいいのですが、という返答に委員長は笑って、人はみな男子を欲しがるのに、どうして女の子がよいというのだね、と聞いた。

気さくなこの物言いに彼は勢い込んで、「総領娘は黄金の娘というではありませんか」と答えた。

委員長は、総領娘は黄金の娘だなんて言っているが、本心は男子を授かる自信がなくてそんな弁明をしてるんだろうと冷やかした。

室内に爆笑がわいた。

この日委員長は、持参した多くの記念品を差し出し、彼らと記念写真を撮った。

委員長は辞去するに当たり、別れを惜しむかのように言った。

「文江順さんがお産をしたら、通りすがりに改めてお伺いします」

軍の馬場を大衆乗馬サービス場に

2012年11月某日、金正恩委員長はある軍部隊直属の馬場を視察した。

軍部隊に到着した委員長は、当軍部隊の馬場を勤労者や青少年の体力を鍛える乗馬クラブにつくり変えることを構想して当該部門に指示したが、実態を現地で確かめようとしてやって来たと語った。

馬にまたがり円形コースを何度か回ってみた委員長は、これくらいならコースの状態は悪くない、乗馬運動に適している、乗馬クラブを一日も早く近代的につくり上げて人民に提供しようと言った。

委員長は、乗馬は勇敢さと大胆さをはぐくむ大変よい運動だ、乗馬に努めれば労働と国防に適応した健全な精神、頑丈な体力が身に付き、特に少年時代から乗馬教育を受け、乗馬運動に常時励めば筋肉が発達し、成長後も腰の病気にたやすくかからなくなる、今はコンピュータによる事務の処理など精神労働の増加と関連して事務員病なるものが生じているが、乗馬運動をしていると、そのような病気などは未然に防げると教えた。そして、今は世界的にも乗馬が人々の大きな関心事となっているが、朝鮮人民は昔から乗馬をとても好み、馬にまたがって勝負を争う競技をしばしば行い、心身を鍛えたものだと語った。

委員長は、乗馬クラブの建設が立派に完成すれば勤労者や青少年が大勢押しかけてくるだろうし、乗馬運動を続けると身心が鍛えられ、同時に生の喜びをいっそう大きく味わうようになる、今平壌市の処々にローラースケート場が設けられて、ローラースケートブームが生じているが、乗馬クラブがオープンすれば、乗馬運動ブームまで生じるだろうと言った。

委員長は、乗馬を大いに奨励するには、乗馬運動に必要な条件を十分に具備しなければならない、そのためには、乗馬クラブの基本コースをもっとよく整備し、室内乗馬練習場も建てよう、乗馬クラブの周辺には築山も造成していろいろの木を植え、自然環境との調和が取れるようにし、基本コースの中心部あたりの広い空き地にはプロムナードもつくって憩いのひと時を十分に過ごせる

ようにすべきだと教えた。
　委員長は続けて、乗馬クラブを立派に建設するとともに、乗馬学校も設けることだ、乗馬学校では乗馬教育だけでなく、馬の飼養と馴致の方法も教えるべきだ、そしてまぐさの確保をはじめ必要な問題を適時に解決しなければならないと強調した。
　その後、委員長は建設現場をたびたび現地指導し、乗馬クラブを朝鮮労働党の人民観が立派に具現された大衆乗馬サービス場として完全無欠につくり上げるよう精力的に導いた。
　こうして2013年10月25日、美林（ミリム）乗馬クラブは落成した。

労働者の素晴らしい宮殿

　金正恩委員長は、2013年６月７日、平壌基礎食品工場を現地指導した。
　委員長は金日成主席の現地指導標識碑を注意深く見た後、工場の全景を俯瞰し、あたかも洋服をりゅうと着こなしているかのような趣だと言った。
　ついで工場の改造・近代化状況を収録したビデオを見て、昨日と今日の相違が顕著で、明日の様相が目に浮かぶような工場だ、21世紀の工場として完全に垢抜けし、思想、技術、文化の３大革命路線が具現された工場だ、ほかの工場、企業も近代的な改造を目指すなら、平壌基礎食品工場のように大胆に、全般的側面を視野に入れて推し進めるべきだ、と強調した。
　託児所に足を向けた委員長は、庭で遊び戯れる子どもたちににこにこと、何をしているんだねと話しかけてやさしく手をとりもした。そして、いろいろな遊戯器具や庭一面の芝生を一覧した後、屋内の採光室、炊事場、食堂、知能遊戯室、乳児部屋、教育

平壌基礎食品工場を現地指導する金正恩委員長

部屋などを見て回り、子どもの保育と童心にふさわしくみな立派にしつらえられているとたたえた。

続けて総合指令室に案内された委員長は、生産工程と経営のコンピュータ化が高いレベルで実現していることに大きく満足し、新設された精製油、マンネギ（化学調味料）、精製塩、ビタミンEの生産工程と包装工程をいちいち見て歩き、全般的生産工程のオートメ化、無人化が高いレベルでなされていると評価した。

電子図書室をはじめ科学技術普及施設が立派に整っている、製品の質を高め、設備の管理を手落ちなく行うためには、党の科学技術重視政策にのっとり先進科学技術の普及に努めなければならない、と強調した委員長は、当工場の従業員たちが遠隔講義室で金策（キムチェク）工業総合大学の講義を受け、教育課程を修了しつつあると聞いて、全社会のインテリ化を果たす上で遠隔教育は実に重要だと指摘した。

新築のプール、美容室、理髪室、音楽鑑賞室などを見ては、便益サービス施設がなかなか立派だとたたえ、工場構内を歩いてみながら、工場の労働者たちは自分たちの職場を休養所さながらにつくり上げた、生産文化、生活文化を高度に確立することを求める党の思想と方針を心底から受け止めていると述べた。

委員長は、平壌基礎食品工場は労働者の素晴らしい宮殿、労働党時代の味わいがする工場、愛国心に満ちた工場だ、すべての単位が当工場の模範に習うべきだと強調して、工場の従業員を集めて記念撮影を行った。

農場都市

2015年６月29日、金正恩委員長は平壌市寺洞（サドン）区域の将泉（チャンチョン）野菜専門協同農場を訪れた。

寺洞区域将泉野菜専門協同農場を現地指導する
金正恩委員長

この協同農場は、金日成主席と金正日総書記の不朽の指導業績がこもる当農場を、温室野菜生産のモデル、全国的な模範農場につくり上げるようにという委員長の前年６月９日の現地指導での指示で面目の一新がはかられた農場である。

委員長は、新設の革命事績教育室が立派だ、沿革紹介室に将泉里の昨日と今日を見せる資料が掲示されているが、これらを見ると当農場がいかなる変遷を遂げてきたかがよく分かる、金日成同志と金正日同志の恩情、細心の配慮に浴したおかげでいまや首都市民に全的に奉仕しうる有力な野菜専門生産農場、幸せに満ちた生活の場に様変わりした、金日成同志と金正日同志がおられたからこそ将泉里の今日がありえたのだと熱い思いをこめて語った。

続けて委員長は、革命事績教育室と沿革紹介室を通した教育に力を注ぎ、幹部や農場員が誉れの高いこの職場で働く大きな誇りを胸に秘めて野菜の増産に努めることで、金日成同志と金正日同志の不朽の業績を輝かせていくべきだと強調した。

ついで委員長は文化会館、科学技術普及室、将泉院、文化住宅など処々を見て回り、どの建物や施設物も新世紀にふさわしく最

上のレベルで建設されていることに大きな満足を示した。

委員長は、農場員たちが心ゆくまで文化生活を楽しめるよう、文化会館を劇場と見まがうほど立派に建て、バレーボール場、プール、ローラースケート場それに養魚場まで備えた公園や遊園地も見栄えよく整えた、総合的なサービス施設である将泉院の設計と施工も申し分ない、便益サービス施設がもれなく具備され、要所要所一点の瑕もなく完成されていると高く評価した。

将泉野菜専門協同農場は全国的なモデル農場にならなければならないと強調した後、展望台に立った委員長は、農場の全景はまさに壮観だ、将泉野菜専門協同農場は一つの農場都市だ、調和よく見事に出来上がっている、と繰り返したたえた。

わが党の不動の意志

2015年９月27日、金正恩委員長は建造なった総合サービス船「ムジゲ（虹）」号を視察した。

委員長は以前に、料理店や各種のサービス施設、文化・厚生施設を備えた総合サービス船を建造して、玉流（オンリュ）橋と大同橋間の江上に浮かべれば、人民に今一つの憩いの場を提供することができるとして総合サービス船の建造を発意し、その間数度にわたって設計の指導を行い、建造上持ち上がった難題の解決策を積極的に講じもした上、船名を「ムジゲ」と自ら命名していた。

4階造りの船内には、民族料理店、コーヒーショップ、清涼飲料店、ベルトビュッヘ食堂、露天デッキ食堂、回転展望食堂などのサービス施設が立派に設けられてあった。

委員長は、大同江岸のプロムナードに立って不夜城さながらの「ムジゲ」号を眺め、七色玲瓏たる虹のようだ、大同江が一段と

総合サービス船「ムジゲ」号を視察する
金正恩委員長

明るさを増した、社会主義祖国の首都平壌は昼見ても夜見ても実に華麗だとして満悦し、大同江に近代的なサービス船を浮かべて人民の利用に供しようというのは、金正日同志の生前の願望であったと、熱い思いをこめて語った。

「ムジゲ」号に乗船した委員長は、船の設計と内装は最上のできばえだ、いずれの要素に難点はない、造形化、芸術化が無上の域に達しているとすこぶる満足した。

そして、人民のための富をつくり上げたときほど以上にうれしいことはない、幹部たるものは何であれ人民に尽くせるものを一つでも余計につくり出し、そこに喜びと生きがいを求めるべきだ、「ムジゲ」号は人民のためにわれわれがなすべきことと比べては、一粒の砂だとしかたとえようがない、けれどもわれわれはこんな砂粒を集めて泰山を築き上げなければならないのだ、と力をこめて言った。

委員長は、世界が羨望する最高の文明を最大のスピードでつく

り上げるのはわが党の不動の意志である、われわれは世紀を先取りして飛躍的な発展を遂げ、われわれ自体の力で文明国をつくり上げるべきだとして、こう述べた。

「他国が10年間で成し遂げたことを、1、2年のうちにすべてわれわれのものとして仕上げなければなりません。われわれは、『最上の文明を最高のレベルで享受できるようにしよう！』というスローガンを高く掲げ、朝鮮人民を世にうらやむことなく豊かに暮らせるようにしなければなりません」

北辺戦域の一大変貌

大災害

2016年８月末。

朝鮮の北辺を襲った豪雨は、２日２晩瞬時も休まず激しく降り注いだ。

豆満江（トゥマン）が氾濫し、無数の渓流が黄色いしぶきを上げながら住民地帯に流れ込み、大小の岩石がぶつかり合いなだれを打って山腹を崩れ落ちた。

祖国の解放後における、気象観測史上最高の激しさで朝鮮北辺の６市・郡を総なめにした大洪水は、国にたとえようのない災難をもたらした。

大水は数多くの家屋を無残に破壊し、鉄道、道路などの交通網や電力供給系統、通信網、工場と企業、農耕地を見る影もなくぶち壊し、呑み込んだ。あたかも大戦禍を被った地域のようなすさまじさである。

敵対勢力は、今回の被害は前年の羅先(ラソン)風水害をはるかにしのぐ最大最悪の災厄である、迅速な復興は絶対に不可能だ、それに黎明(リョミョン)通りの建設にすでに多大な力を注ぎ込んでゆとりをなくした北朝鮮は、心理的な衝撃状態に陥るほかないと酷評した。

不慮の大災厄で通信が途絶し、北国にわが子を持つ親たちさえその消息を知るよしがなかった。

ほかならぬそうした頃、党中央委員会の執務室では連日、金正恩委員長の緊急指示が発せられていた。

・いったん洪水の災禍を受けたからには、住宅の建設と河川の整備をはじめ被害の復興に全力を注ぐべきである。今は何よりも先に、家を失くし野天に放り出された罹災者の生活の安定策を講じなければならない。

・北部被害地域の復興を11月までに完全にやり遂げること。

・人民経済すべての部門、すべての単位は、咸鏡(ハムギョン)北道北部被害地域の復興を「200日間戦闘」の中心課題として定め、これに全力を総動員、総集中せよ。

・全党、全軍、全民が総力を集中して水害の復興を短時日内にいっときも早く完了することで、軍民大団結、渾然一体の巨大な威力を今一度全世界に高らかに誇示せよ。

億万金を投じ、国の財宝をことごとく傾けても

９月10日、朝鮮労働党中央委員会はすべての党員と人民軍将兵、人民に訴える次のようなアピールを発表した。

……

わが党にとって、人民の苦難以上に大きな非常事態はなく、人民の不幸を癒すことより以上に重大な革命活動はありえない。

持ち上がった非常事態に対処してわが党は、「200日間戦闘」の

主要攻略方向を北部被害の復興戦闘に転じて難局を打開する重大決断を下した。

わが国の人的・物的・技術的潜在力を北部被害の復興建設に総動員、総集中して、最短期間にこの甚大な災厄を払いのけ、災いを転じて福となす奇跡を生もうというのがわが党の決心である。

このことと関連してわが党は、黎明通りの建設をはじめ「200日間戦闘」の重要戦域に展開されていた諸主力部隊を北部被害復興戦線に急派し、全党、全軍、全民が総力を集中する重大措置を講じた。

……

北部被害復興の戦いは死生を決する熾烈な戦闘である。

この戦いの結果いかんにより、わが軍隊と人民が血と汗をもって積み上げた2016年の驚異的な諸成果が第7回党大会決定貫徹の踏み台となるか、それとも敵対勢力の期待通り挫折するかという死活の問題が決定づけられるのである。

北部被害復興の戦いは、人民大衆第一主義を絶対の生命とするわが党の人民死守戦、人民奉仕戦である。

人民への滅私奉仕は朝鮮労働党の存在方式であり、革命的党風である。

わが党の並進路線の申し子である、打撃力の強大な小型化、軽

量化、多種化された各種の核弾頭と弾道ロケットも貴重な朝鮮人民をゆるぎなく守ることに必要とされるものであり、党が「70日間戦闘」と「200日間戦闘」を発意し、陣頭指揮を取ったのも、偉大な朝鮮人民の夢と理想を一日も早く実現するためである。

わが党は、人民の運命と生活を度外視した自己の存在や革命の前進について瞬時たりとも考えたことはない。

人民に尽くすほどに、人民が幸福であるほどに、革命隊伍は強力になり、革命も前進するというのが、わが党の革命観である。

億万金を投じ、国の財宝をことごとく傾けても、目前に急迫した厳冬に被災地域の人民が苦しむことのないようにしなければならない。

朝鮮労働党中央委員会は、北部被害地域人民のために重大決定を下した党の決心と作戦を、千万の軍民がこぞって支持し、熱烈に呼応するであろうと固く信じて、すべての党員と人民軍将兵、人民にこのアピールを送る。

今日、「200日間戦闘」の主要攻略方向、最前線は北部被害復興戦線である。

……

北辺の地に湧き上がる労働党万歳の叫び、社会主義万歳の雄叫びにより、チュチェ朝鮮の百戦百勝の気象、英雄的人民の不撓不屈の気象を全世界に轟かせ、「200日間戦闘」で奇跡的勝利を成就しよう！

総力を咸鏡北道北部被害復興戦線の勝利に向けて！

元帥がおられないとわれわれは生きていけません

党中央の呼びかけに勇躍呼応し、金正恩委員長が引いた進撃の矢印に従って、祖国の防衛線に陣取っていた人民軍部隊、黎明通りの建設現場と洗浦（セポ）台地、白頭（ペクトゥ）山地区など全国の主要建設現場に展開していた数多くの建設主力部隊が北部被害地域へ向けて、あ

るいは列車やトラックで、あるいは船に揺られて急行した。

後日世界を驚嘆させた咸鏡北道北部被害の復興戦闘は、こうして始まった。

その後、わずか60余日にして人民軍と人民は、大災難を被った北辺の６市・郡に１万1900余所帯分の住宅と100余の学校、幼稚園、託児所、病院、診療所を建設し、数十の新しい町と村を整えた。

北部被害の復興戦闘は人民大衆第一主義を絶対の生命とするわが党の人民死守戦、人民奉仕戦であるとした金正恩委員長の高い志にのっとって、人民軍と人民は北辺戦域に労働党時代の偉大な新世界を現出させたのである。

2016年11月13日、朝鮮労働党中央委員会は、咸鏡北道北部被害地域の復興で奇跡的な成果を収めたすべての人民軍将兵と突撃隊員、全国の人民に感謝文を送った。

咸鏡北道の北部地域に現出した新しい町や村では、全国人民の関心を集めて、新居入りを祝う集会が盛大に進められた。

夢かまことかと、感激と喜びに泣き笑う北辺の人民は、心底から叫んだ。

元帥がおられないとわれわれは生きていけません！

人民死守戦、人民奉仕戦。今はまだ辞書にもなく、世人はその意味もよく知らないこの新しい時代語の真意は、書物に表記される前に、金正恩委員長の重大決断により、チュチェ朝鮮の北辺百里の地を背景に生き生きと描出されたのである。

2．自強力第一主義と科学技術重視

· 何よりも気に入ること
· われわれの力と技術で
· おぶってあげたい心情
· 名商品、名製品をつくろう
· 自給自足をむねとすべし
· 自分の力が一番だ
· 未来へ向かうには
· 自力更生がつくり出したもの
· 近代化の核心
· 革命の未来を象徴する黎明通り

何よりも気に入ること

誇りに満ちた工場

2012年９月１日、金正恩委員長は大同江タイル工場（当時）を現地指導した。

出迎えた工場の幹部と挨拶を交わし、生産建物の内部をしばらく眺めた委員長は、大同江タイル工場は金正日同志がわれわれの方式の建材生産企業を設立すべく建設を構想し、自ら敷地の選定まで行った工場であり、工場の幹部や従業員が金正日同志の方針を貫くべく、膨大な拡張工事をわずか３年の間に独力で完成したとして、高く評価した。

工場の所々を見て回った後、総合指令室に入った委員長は、支配人から工場の生産実態と今後の発展展望について具体的な説明を受けた。

そして、その間多大な成果を収めた、工場の幹部や従業員は建設現場が求めるタイルの生産を果たさなければならない状況の中でも、金正日同志から任された課題を遂行すべく、独力で第２段階の能力拡張工事に取り組み、建材工業部門に必要な諸工程を立派に造成したと、重ねて大きくたたえた。

委員長は、生産上不可欠の原材料を国内資源をもって充当するチュチェ化を実現し、ひいては国に豊富な無煙炭のガス化によって必要な熱エネルギーを得ていることが何よりも気に入ると語った。

委員長は、この工場の製品を見ると、外国のタイルを羨む気な

どはちっとも起こらない、世界的に当工場の製品に匹敵する高級建材を生産している国はざらにはない、大同江タイル工場はしゃれた工場、美男子工場、誇りに満ちた工場だとたたえた。

委員長はさらに、金正日同志が大同江タイル工場を現地指導した際、この工場は青春工場、将来性のある工場、自力更生のモデル工場だと評されたが、当工場の幹部と従業員はその高い評価に実践をもって報いたと、重ね重ねたたえた。

口先ではなく実地に具現している

委員長は床タイル職場でも、当工場のタイルが重要対象建設現場に大量に送り出されているとのことだが、われわれが思いのままに設計して建設する建造物に国産のタイルをつけているのはなんと誇らしいことか、人々の着る衣服にたとえれば、下着も上着も一切がわれわれの製品で充当できることになったわけだと、喜ばしげに語った。

タイル見本展示台の前でさまざまな紋様のタイルを見て、この工場ではなんでもつくっている、この展示台にはこの工場でしか見られない特色のある製品が少なくないと言った。

この度先進科学技術に徹底して依拠し、上質の多様な製品をより多く生産するために力強く取り組めば、タイル工業は十分先進国に追いつけられるとの確信を抱くことができた、科学技術に依拠して製品の質を一段と高め、チュチェ朝鮮の本領を遺憾なく発揮してみせる、との決心を語る支配人の言葉に、委員長は決意が実に優れているとして、こう続けた。

「……大同江タイル工場の幹部たちが自分の職務について明確な展望設計を立てており、自信も抱いているのは本当に喜ばしいことです。大同江タイル工場にやってきて、幹部たちの確信に満

ちた決意を聞くと、社会主義進軍歌を聞いているかのような心情です」

この日委員長は、自分は工場を見て回りながらわれわれ自身の力で社会主義強国を十分建設しうるとの自信をいっそう固めることができた、当工場の幹部たちはすべてが不足し、困難が折り重なっている中でも、仕事を研究し設計し、不屈の努力を重ねて一つひとつ実りを収めている、われわれは、工場の幹部たちの自分の職務に対する矜持と熱意、進取的な活動態度、愛国心に注目すべきである、大同江タイル工場の幹部や従業員は愛国主義を口先ではなく実地に具現している、と称賛した。

われわれの力と技術で

2013年６月某日、金正恩委員長は平壌基礎食品工場を現地指導した。

出迎えた幹部一人ひとりの手をとった委員長は、平壌基礎食品工場を近代的に改装する工事を完了したとの報告を受けていながらも、どうにも時間を割けず今日やっと来ることができた、今日はゆっくり時間をかけて工場を見て回ることにしようと言った。

自信を与えることができる

工場の全景を俯瞰した委員長は、工場構内を一望するとどの建物も実に清潔で素晴らしい、建物外壁のタイルが国産のせいでそうなのか、一段と見栄えがするとたたえた。

平壌基礎食品工場を現地指導する金正恩委員長

沿革紹介室の投影室でマンネギ（化学調味料）の生産工程を画面を通してみながら委員長は、以前この工場はマンネギを砂糖をもって生産していたが、今ではトウモロコシ澱粉を用いてつくっている、マンネギを砂糖をもって生産する工程を水葡萄糖をもって生産する工程に替えたのはよかった、わが国では砂糖の生産が不可能なのだから、マンネギをこのように国産の原料を用いて生産することが大切だ、と言った。そして一同を見回し、生産工程の無人化を実現した一事からしても、確かに平壌は平壌だ、地方の食品工場よりはるかに進んでいる、一部の食品工場は包装を手労働で行っているが、当工場を見学してすべて無人化しなければならないと指摘した。

委員長は、われわれの科学者、技術者、労働者の創意を積極的に発揮させて、設備のチュチェ化を実現しなければならない、そうしてこそ、国の機械製作工業の発展をはかり、人々に、決心さえすればわれわれの力と技術でなんでもつくれるという自信を抱かせることができる、と語った。

大衆の精神力が基本

食用油職場で工場の責任幹部は、ビタミンの製造工程について説明し、この工程の設備は、外国の企業が値段を法外に高く吹っかけるので、取り引きを中止し、独力でつくり上げたものだと報告した。

委員長は大きくうなずき、このようにわれわれの科学者、技術者、労働者が自力でつくった設備によっても、生産工程を近代的に整えることができるにもかかわらず、外国から一式で輸入する必要があろうか、生産工程を新たに整える場合、必要な設備を一式で買い入れようとはせず、この工場のようにわれわ

れの知恵、われわれの技術で設備をつくるよう努めるべきだと強調した。

長い時間をかけて工場の諸所をいちいち見て歩いた委員長は、工場の建設はどこが受け持ったのかと尋ねた。

工場の従業員が自分たち自身の手で建てたと聞いた委員長は、平壌基礎食品工場の女性従業員が建物の外壁にタイルを張る際、宙吊りの踏み台の上で、助力を最初はこわごわ行ったが、結局は独力でやり遂げたということだが、生産者大衆の精神力を発揮させることこそ基本だ、平壌基礎食品工場が生産工程を近代化し、生産文化、生活文化を確立したことも大切だが、生産者大衆の精神力を積極的に奮い立たせて、独力で工場を近代的に一新させたことこそよりいっそう貴重なのだ、と高く評価した。

おぶってあげたい心情

2015年１月９日、金正恩委員長は建設を完了した平壌市キノコ工場（当時）を視察した。

建物の中へ入り、廊下から接種室をのぞいた委員長は、自動接種器に目を向けて、ここには自製の設備は多いのかと尋ねた。

一幹部が市内の大学や工場、企業で製作したものが多数を占めていると答えた。

委員長は、それはたいそう結構だ、当工場の基質成型場にある設備はほとんどが市内の大学や工場、企業の工夫による製品だとのことだが、朝鮮人は聡明で、一つを見ただけでも三つ、四つをつくり上げるほど才幹に長けている、今後キノコ工場を建設する

単位は、キノコ生産用の設備を輸入にのみ頼ろうとせず、自製が可能だと見れば、自分たち自身の力と技術でつくるようにしなければならないと言った。

制御室で、室内をずっと見回した委員長は、制御室はなかなか立派にできているとして、生産工程についての説明を求めた。

委員長は、モニターに顕示された、キノコ基質の成型工程、キノコ無菌工程、キノコ栽培工程、経営情報システムなどについての説明によれば、この制御室で工場の経営一切をコンピュータにより自動制御している、ほかならぬこうすることが統合生産システムだ、今後すべての工場の制御室を平壌市キノコ工場制御室のレベルに引き上げることだ、これまでに見た単位の中では最高の出来だ、非常によくやったと高く評価した。

技術準備室で委員長は、平壌市がキノコ工場を建てたからには、これからはキノコが実際に市民の手に届くようにしなければならない、市民に行き渡らないようではキノコ工場の建設が単なる絵空事に過ぎなくなると指摘した後、耐熱性プラスチック瓶が10年は持つということだが、一度見てみようと言って培養室に向かった。

そこで耐熱性プラスチック瓶に目を凝らして指差し、どうだ、この小さな瓶の口からこんなにも大きなキノコが出ているではないか、ある工場ではビニール袋でキノコを栽培するので、みな側方から生え出しているが、ここでは瓶を用いているので、キノコがまっすぐに出ている、確かに違う、と言った。そして今一度キノコに目を凝らし、本当に素晴らしい、平壌市キノコ工場が導入した耐熱性プラスチック瓶によるキノコ栽培法は工業的なキノコ栽培法だと高く評価した。

現場を後にしながらも委員長は、自分が気遣っていた問題が解けた、科学者、技術者たちは実利的な方法を発見した、

平壌市キノコ工場（当時）を現地指導する
金正恩委員長

科学者、技術者はキノコの栽培で世界を圧倒せずにはおかないとの高い目標を掲げて先端を突破すべきである、党政策の正しさと生命力は科学技術により裏打ちされなければならないと語った。

野外栽培場まですべて見終えた委員長は、今日は本当に気分がよい、新年早々人民のために建てられた素晴らしい創造物を見て、なんと気持ちがいいか分からない、たいそう満足した。そして、１年365日が毎日こんな日で続くならそれこそ申し分なかろう、党の構想を違えず近代的なキノコ生産工場の建設に積極的に寄与した科学者、技術者や労働者たちをおぶってあげたい心情だ、と熱い思いをこめて語った。

名商品、名製品をつくろう

上質の靴をより多く

2015年１月30日、元山製靴工場を訪れた金正恩委員長は、工場の幹部たちの出迎えを受けた後、まず沿革紹介室に案内された。

ここに展示された事績物や事績内容を注意深く見て歩いた委員長は幹部たちに向かって、金日成同志と金正日同志の指導業績を銘記して職務にいっそう励むことだ、今後元山製靴工場は靴の生産を正常化し、製品の質を高めなければならない、わが国も今では人々の生活レベルが高まって、上質の履物を求めている、世界的にイタリアの靴が最高だと評されているが、わが国の靴が外国の製品より劣ると言われるようではよくない、

元山製靴工場を現地指導する金正恩委員長

わが国の製品の質が悪く、外国の製品に引けを取れば、人々はわが国のものに誇りを持てず、自国のものを心から愛し尊ぶようなことはしないだろう、元山製靴工場はヨーロッパやその他の国々の、靴関連の優れた資料なども参考にしながら、靴の品質向上に積極的に取り組むことが重要だと指摘した。

生産現場を見て回りながら支配人から諸設備の原状復旧状況を確かめた委員長は、履物生産の多種化、多様化、多色化を実現して、年齢と好み、職業にあう履物を求める人民に各種の履物をより多くつくって供給すべきであると語った。

そして、元山製靴工場は靴の品質をよりいっそう高め、当工場製の靴をすべて名商品、名製品にしなければならないと強調した。

当工場の製品が展示されている履物陳列台の靴をいちいち注意深く見た委員長は、こんな上質の靴を、元山市の片隅にある工場で生産していると聞いては、誰もすぐには信じようとしないだろうと言った。

工場を見終えた委員長は、今日元山製靴工場を見て回ってたいそう満足した、このように立派に整えられた工場を見てほんとうにうれしい、と言って従業員たちと記念撮影をした。

人民の需要と評価

同年11月26日、委員長は再び元山製靴工場を訪れた。

委員長は、いつだったか外国の訪問を終えて帰った金正日同志が、今度その国のあるデパートを見学したが履物の売り場に気を奪われ、そこから目を離せなかったと述懐されたことがある、その時自分は本当に胸が痛んだ、金正日同志がどれほど国の製靴工業を気にかけ、どうすれば人民によりよい履物を提供できよう

かと心を砕き、遠く外国を訪問してまで履物の売り場から目を離せなかったのだろうかと思い、金正日同志の心労を和らげるためにはどうしたらよいかと、いろいろと考えざるを得なかったと言った。

そして、元山製靴工場の幹部や従業員は、人民の履物のことであれほど心労の絶えなかった金正日同志の念願をかなえるべく、国の製靴工業を振興させる上で先駆的役割を果たさなければならないと強調した。

委員長は射出作業班で、作業台に置かれてあった塩化ビニール弾性剤製の男子防寒靴用の靴底を手にとって40文というサイズの表記を見ながら、履物のサイズの表記はみなわれわれの仕方で行っているのかと聞いた。

サイズの表記はすべてわれわれの方式通り文数をもって行っているとの支配人の答えに、ヨーロッパではmmシステムが採用されているが、わが国では自分が以前強調したとおり文数で表記しているとして満足し、射出された靴底に40の文数が記されているが、このようにサイズを文数で表記するのがわれわれの方式だ、われわれは全的に履物のサイズを文数で表記すべきだと語った。

当工場製の防寒靴は人民の需要が大きいという支配人の説明を聞いて委員長は明るく笑い、防寒靴の需要が大きいと言うが、工場幹部の言葉だけではその真偽の程が定かでない、幹部たちは商店に出かけて、「鷹峰山（メボンサン）」ブランドの履物の需要や評価はどの程度で、売れ行きはいかほどかを実地に確かめてみるべきだ、さらに元山製靴工場の生産計画と製品の出荷量を商店における販売量と比べてみて、商店に滞貨が多い時は、まだまだ当工場の履物の質が落ち、多様にもつくられていないと判断すべきだ、元山製靴工場の幹部は当工場製の履物に対する人々の声に始終耳を傾け、それに敏感に対応すべきだ、と語った。

委員長の言葉は続いた。

工場の幹部は一足の靴をつくっても、人々に上質の履物をという観点と立場から、人々が履いて歩く履物に注意を向け、わが子に靴をはかせる親の心情で、靴の履き心地はどうかと尋ねても見るべきだ。

元山製靴工場は「鷹峰山」ブランドの履物を名商品、名製品として生産し、人民が当工場製の履物を喜んで履くようにしなければならない。……

わが党の要求

生産された靴を取り上げた委員長は、確かに格好がいい、われわれの物は何という素晴らしさだろう、と誇らしげに言った。

しばらく後、当工場製の接着剤、光沢剤、表面処理薬の陳列台に歩みを移し、使用説明書に目を通した委員長は、当工場製の接着剤や光沢剤なども展示されているが、接着剤は硬化が十分でないと接着力が弱まる、工場で生産した靴を幹部たちにまずはかせて、接着力が強いかどうかを確かめ、意見を聞いてみるとよい、接着剤は早く乾きながらも接着力が強くないといけない、製靴工業に必要な接着剤は国産のもので充当しなければならないと強調した。

委員長は、今元山製靴工場は幾どおりの原料を購入して接着剤をつくり、靴の生産を進めているということだが、接着剤問題は必ず自分たちの手で解決すべきだ、工場は靴の生産に必要な塩化ビニールと合成皮革は、2・8ビナロン連合企業所と平城（ピョンソン）合成皮革工場の製品をそれぞれ仕入れて使っているというが、今に接着剤問題さえ解決すれば、靴の生産では多くの問題がスムーズに解決

できるだろうと言った。そして、人民に抱かせるすべての物が世界最高のレベルでなければならぬということ、これが今日のわが党の要求である、元山製靴工場の幹部と従業員は、人民の履く履物は世界最高のレベルを占めなければならぬという観点と立場に立って、名商品、名製品を生産すべく、力強く取り組まなければならない、と強調した。

委員長は、今年、人民に供給する履物の生産で革新を起こした元山製靴工場の幹部と従業員を力づける必要がある、彼らが一年中仕事に励んできたことを私が高く評価したということを必ず伝えるべきだ、と語った。

自給自足をむねとすべし

金正恩委員長は、2015年８月31日、平壌トウモロコシ加工工場を視察した。

自力で製作した電子黒板

まず、金日成主席と金正日総書記がトウモロコシの加工と関連して行った遺訓の実行状況を見せる地物模型の内容をつぶさに見た委員長は、金正日同志は機会あるたびに、トウモロコシの加工工業を伸ばして種々のトウモロコシ加工品を生産するよう強調されたと語り、当工場の生産能力についていろいろと尋ねた後、科学技術普及室に足を向けた。

普及室にいた人の挨拶に答礼した委員長は、同行した一幹部を振り向き、科学技術普及室ではどんなことを行っているのかと尋ねた。

彼は遠隔教育大学教育システムを設け、電子黒板の設置も行ったと答え、今挨拶をしたこの人は金日成総合大学某研究所の室長だが、研究所の人たちが工夫して電子黒板を製作したと説明した。

委員長は、それは耳寄りな話だ、一つ動作させてもらえまいか、金日成総合大学の新製品を見たいものだと言った。

電子黒板についての説明をした後、室長はそれを実地に動作させて見せた。

委員長は、なかなかよくできている、とりわけ電子黒板を液晶テレビ画面の一角にセンサーを取り付ける方法で製作したのは上出来だと評し、電子黒板を教室に設置すれば講義にも便利だし、マジックが不要なので、インクも大いに節約できる、このような物は、人民軍部隊で作戦を行う際に利用するのも悪くはなかろうとし、科学技術普及室を立派につくり上げたとたたえた。

自分たちの用途と能力にふさわしくつくれ

トウモロコシゼリー生産室を一通り見て回った委員長は、支配人に当工場の設備国産化の割合はどれほどかと尋ねた。

国産化の割合は30%だという一幹部の返答についで、支配人が廊下の向こう側の窓から見える麺生産室に備わっているトウモロコシ麺の自然乾燥工程を指さして、あれは金策工業総合大学で製作した設備だと説明した。

２人の話を聞き、設備はわれわれの方式でつくらねばと言って麺生産室に入り、麺熟成炉の有機ガラスを叩いてみて自製の炉かと聞いた。

そうですという一幹部の返答に、麺熟成炉を自分たちの力、技

平壌トウモロコシ加工工場を現地指導する
金正恩委員長

術で製造して使っているのだからなんと素晴らしいことか、よくやったと大きくたたえた。

トウモロコシ蒸しパン生産室で生産実態の報告を受けていた委員長はふと、当工場の設備を購入するのに使った外貨はどれほどかと質問した。

かなりの外貨を投じたと聞いた委員長は顔を曇らせ、われわれが自製していたなら大変な外貨が節約できたろうにとし、今機械・設備を自分たちの手でつくって使用しようとはせず、輸入品を使おうとばかりしているが、幹部たちがいつまでもそんな風にしていると、国の機械製作工業がへこたれてしまう、われわれは機械製作工業を発展させて必要な設備を自製する癖をつけ、自分たちの用途と能力にふさわしくつくらねばならないと指摘した。

自分の力が一番だ

なによりも貴重なもの

2015年10月22日、金正恩委員長は組み立てを終えた地下鉄電車を見るべく、金鍾泰（キムジョンテ）電気機関車連合企業所を訪れた。

委員長は企業所の幹部たちに、党創立記念日の10月10日まで地下鉄電車をきっとつくり上げると言ったが、その約束を果たした、その間電車の製作に傾けた苦労は並大抵でなかったろうと、大いにたたえた。

委員長は、自分がわれわれの方式の地下鉄電車をなんとしても自力でつくり上げるようにと言ったのは、どのようなものであ

金鐘泰電気機関車連合企業所を現地指導する
金正恩委員長

れ、われわれの力と技術、われわれの方式でつくってこそいっそう貴重で光り輝くのだという真理を、人々に百万言をもってするよりも実地に見せて悟らせるためだったのだと語った。
　委員長は、世界的なレベルに到達し得なかったので面目が立たないという幹部たちに、自分は地下鉄電車の出来具合を裁定するために来たのではない、最初の一匙でおなかが膨れようか、われわれが地下鉄電車を自力で設計・製作したということを広く紹介・宣伝することだ、と言って彼らの労をねぎらった。
　委員長は地下鉄電車の内部を見て歩きながらも、電車を外国のもの以上に立派につくれなかったにしても、われわれの技術、われわれの手でつくったのだからいっそう貴重だ、われわれの労働者、科学者、技術者たちが自力で地下鉄電車をつくり上げたのはこの上ない成果だとたたえ、今こそわれわれのものを重視すべきときだ、と語った。
　運転室まで見て回った委員長は、地下鉄電車を自らの力と技術でつくることができたのは、われわれの労働者と科学者、技術者が金日成同志と金正日同志が植えつけてくださった自力更生の革命精神を強く発揮したからであるとし、今日は実に気持ちがいい、空にはわれわれがつくった飛行機が飛び、地下ではわれわれがつくった電車が走ることになったと思うと、どんなに力がわくか分からない、試運転の際はきっと乗ってみる、われわれがつくった飛行機にも乗ってみたのだから、地下鉄電車にも必ず乗ってみる、と激情にかられて語った。
　このとき一幹部が地下鉄電車にはまだ不備な点がいろいろとあると申し訳なさそうに言ったが、委員長は、不備な点はやがて塗装工程、部品加工工程の近代化が実現すれば改めることができる、われわれの労働者、科学者、技術者の力は無限無尽だ、われわれはその力をもって人工衛星を打ち上げたと述べた。

自力でつくったことに意義がある

翌月の11月19日夜10時30分、委員長は地下鉄電車の試運転を行う際はきっと乗ってみようと言った約束通り、試運転を始める平壌地下鉄の凱旋(ケソン)駅に姿を見せた。

地下鉄電車の内外を見て歩きながら委員長は、なんと素晴らしいことだ、この前にも言ったことだが、金鐘泰電気機関車連合企業所の労働者や科学者、技術者が地下鉄電車を自分たちの力と技術でつくり上げたことは大変な成果だ、私が地下鉄電車の製作を高く評価しているのはほかでもなく、これを自分の力、自分の技術でつくり上げたからだと、目を輝かして言った。

そして、この新車の技術状態を外国製の物と比べてみるつもりは私にはない、われわれの革命陣地を打ち固め、社会主義強盛国家づくりの雄大な目標を達成するためには自強力が必要不可欠だとして、こう述べた。

「自強力の根本は自分のものへの確信と愛着、自分のものへの誇りと自負です。自分のものが一番であり、自強力が第一です。今度われわれの力と技術で地下鉄電車をつくり上げたのは、われわれの自強力をはぐくむ上で大きな意義があります」

やがて、地下鉄電車は軽快な響きを上げながら滑り出した。

委員長は、電車のスピードが上がるにつれて揺れは大きくなる、おかげで消化が助けられるようだと笑って言った。

どっと爆笑が起き、張り詰めていた空気は瞬時に霧散した。

委員長は、われわれが軽飛行機をつくったことを大いに宣伝しているのは、その飛行機が何か大きな役割を果たすと考えているからではなく、人々にわれわれのものが一番であり、われわれの力が第一だという確信を抱かせるためである、われわれが自分た

新しくつくった地下鉄電車の試運転を指導する
金正恩委員長

ち自身の手で地下鉄電車をつくり上げたことをもってしても、人民に対する信念教育を強める必要がある、党員や勤労者たちにわれわれのものが一番であり、自強力が第一だという信念を抱かせるべきだと強調した。

そのうちに電車は栄光(ヨングァン)駅に到着した。

ホームに出て車体の外面をなでながら委員長は、われわれの地下鉄電車は外国産のものより美々しくはないかも知れないが、われわれが自力でつくったことにこそ意義がある、わが国で初めてつくられたトラクターは逆向きに進んだものだが、この電車は正常に前進したではないか、実に喜ばしいことだ、及びもつかぬとされていたものをつくり上げたと満足を表し、国産の地下鉄電車が勢いよく走るとはなんと素晴らしいことか、電車に一部不備な点があるとはいえ、全体的には良好だと、また喜ばしげに言った。

この日委員長は、地下鉄電車の試運転が立派になされたことに大いに満足し、一行と並んで電車を背景に記念撮影を行った。

未来へ向かうには

2015年10月27日、金正恩委員長は落成なった科学技術殿堂を視察した。

委員長は、去る２月建設現場には根切りをして土を掘り上げた爆弾の穴みたいなものしかなかったが、膨大極まる工事を何カ月しかならぬ短い期間にやり終えたのはまさに奇跡だ、党は確かにそうすることを求め、それを闘争目標に定めたが、実に驚くべきスピードだ、わが人民が創造している闘争速度には感

科学技術殿堂を現地指導する金正恩委員長

嘆せざるを得ないと言った。

そして、わが国には10年経てば山河が変わるということわざがあるが、近年われわれは1年を10年なみに前進する勢いであまたの建設を推し進め、去年まで年々見違えるばかりに新しいものを創造してきたけれども、今は、昨日と今日が異なり、朝と夕べが相違しているというほど新しいものをつくり出している、われわれはこんなスピードであくまでも前進し、強国づくりの最後の勝利を早めるべきだと語った。

委員長は、科学技術殿堂と科学者宿所、屋外展示場、野外休息場などの全般的調和がよく取れている、それぞれのバランスも申し分ない、護岸堤防に太陽電池パネルを設け、そこで生産される電気を科学技術殿堂の利用に供するようにしたのも上出来だと大いにたたえて、こう続けた。

「科学技術殿堂が建設されてスク島は様相を一変しました。スク島の従前の姿はどこにも見られません。スク（ヨモギ）が生い茂っているとしてスク島と呼ばれていた中州が、科学の島、学びの島になりました」

委員長は、科学技術殿堂が建設されたのは朝鮮労働党の科学技術重視思想の威力を誇示したことを意味する、革命を前進させて未来へ向かうには、誰もがみな科学技術に通じるべきであり、科学技術をものにするためには科学技術殿堂にやって来なければならない、科学技術殿堂は明るい未来へ向かう列車の切符売り場のようなものだと言った。

自力更生がつくり出したもの

金正恩委員長は、2015年10月30日、平壌ナマズ工場を視察した。

膨化飼料設備もわれわれの手で

委員長は、工場近代化の工事と並行してナマズの生産を同時に推し進め、昨年に比べて２倍にまで高めたのは奇跡だ、現在のこの工場のナマズはほかから仕入れたものではなく、工場の幹部と従業員の努力で生産したものだとして、彼らの自力更生、刻苦勉励の革命精神を大いに評価した。

委員長は、わが国の幹部は金正日同志がその晩年、人民の生活について如何に大きな労苦を傾けられたかをはっきりとは知らないはずだ、その労苦について公開されなかった事実も多い、いつどこで人民の生活問題をもって、なんと話されたといちいち話すことはできないにしても、幹部たちは金正日同志の労苦をよく知らなければならないと、しみじみと言った。

委員長はふと支配人に、膨化飼料設備は設けてあるのかと尋ねた。

そのような設備はないという返答に、膨化飼料設備は必ず備えていなければならないとしてあるナマズ工場の名を挙げ、そこへ幹部たちが養魚科学者と技術者を同伴して行き、見学を行うべきだと言った。

最近その工場に膨化飼料設備が新設されたことを念頭において話したのである。

委員長は、膨化飼料設備を備えておけば、飼料を節減しながらもナマズの生産を一段と伸ばせる、その設備まで具備すれば、平壌ナマズ工場は完全な満点の工場になる、膨化飼料設備を導入するにはかなりの資金を投入するほかないが、平壌ナマズ工場に必ずそのような設備を導入することだと重ねて強調した。

そして、飼料の浪費を防ぐことは飼料単位を低める上での核心

だと言える、飼料の加工設備を自分たちの手でつくるのは大きな意義のある成果をもたらすことになるだろうから、きっと科学者たちが出かけてじかに確かめるべきだ、平壌ナマズ工場の幹部と養魚部門の科学者、技術者がその工場で膨化飼料設備を見、それを自力でつくれるかどうかを検討してみるとよい、自分の考えでは、膨化飼料生産設備の30〜40%は自力でつくれるだろうと思うとして、その方法を具体的に話した。

自製品だからこそ余計気に染む

ついで、総合指令室で国家科学院の一室長から平壌ナマズ工場の統合生産システムの構成と生産工程に関する説明を受けた委員長は、国家科学院が平壌ナマズ工場の統合生産システムを構築したのは立派な成果だ、こんなにも優れた成果を上げた科学者たちを高く評価する、以前外国から輸入していた設備を、われわれの力と技術、知恵を傾注して生産に導入したことを高く評価すれば、科学者、技術者の間に外国の大学や科学研究機関を相手取っても引けを取るものかという競争熱が大いに高まるだろうと語った。

室長が統合生産システムに関して、以前は制御システムは輸入に頼ったものだが、今回は輸入を行わず、自分たちが開発した分散処理器そのほか自作の製品をもって完成したと報告した。

委員長は明るく笑い、そうだろうからこそ基準を立てる必要がある、養魚場に統合生産システムを構築する際は、必要な設備をできる限りチュチェ化し、資金を極力節減すべきだ、本年科学技術分野が達成した成果を大々的に宣伝することだ、そうした意味でもこの工場が輸入に大いに頼らず、われわれの力、われわれの知恵をもって装置を開発し生産に導入したのだから、その成果を

平壌ナマズ工場を現地指導する金正恩委員長

高く評価すべきだと述べた。

ついで発酵飼料加工場内の液体発酵場に入った委員長に、国家科学院の一幹部が飼料添加剤の生産工程をきちんと整えて、海赤色酵母試製品をつくることに成功した結果、輸入に頼っていた赤色酵母をわれわれの方式で生産することが可能になったと報告した。

委員長は彼らが収めた成果を大いにたたえ、この工場を養魚部門の典型単位、方式講習単位と定めて見学させるとよい、見学はつまり知識の習得である、当工場を見学するのは養魚部門に関する党政策の学習であり、科学技術の学習、実物教育であると教えた。

やがて2階にある固体発酵場の諸設備の間を腰をかがめて通り抜け、ベルトコンベヤーの前で立ち止った委員長は、それにしばらく目を凝らし、何か思い当たるふしがあってか、支配人に自製品なのかと尋ねた。

支配人は顔を赤らめ、実は植物性原料を発酵処理して総合飼料加工場に送っているのだが、工場自身の手でつくった設備なので上手に出来上がらなかったと、きまり悪げに答えた。

委員長はそんな彼を見やりながら言った。

「固体発酵場に設けた設備を工場自体の手でつくったせいで上手に出来上がらなかったということだが、私は外国の商標が付いている設備より、わが国の労働者たちが自分たちの手でつくり上げたこのような設備こそ余計気に染みます。これらの設備は工場労働者の自力更生の創造物です」

近代化の核心

2015年11月13日、金正恩委員長は平壌幼児食品工場を訪れた。

われわれのものへの自負

工場全景図の前で当工場の近代化と関連した支配人の説明を聞いた委員長は、国産化のレベルが78％なら低くはない、近代化の核心は国産品に基づく近代化だ、今回国産化の比率を高めたことの意義は大きい、これが自分の喜びを何よりも大きくしてくれたと満足そうに語った。

そして、今一部の幹部は、設備一切の輸入をもって近代化を果たしたなどと言っているが、それでは近代化だとは言えない、今後工場、企業の近代化に要する設備と資材はわれわれ自身の手でつくらなければならない、設備と資材の国産化の比率を高めること、これが工場、企業の近代化の核心、基本的な指標であると指摘した。

続けて委員長は、国の機械製作工業が発達すれば、そのときはわれわれも優れた機械をつくって輸出もできるわけだ、この工場における近代化の核心は国産化を通して近代化を実現したことであると語った。

その後製品倉庫の中を見て回り、製品倉庫では豆乳容器の運搬作業をロボットが行っているそうだが、以前はそんなことを考えることすらできなかった、ベルト上に豆乳容器8個が置かれると、ロボットが自動的にそれらを他へ移すということだが、ロボット

平壌幼児食品工場を現地指導する金正恩委員長

の動作を一度見てみようと言った。
　ロボットの動作を眺めて明るく笑った委員長は、実にうまくできているとたたえた。
　製品倉庫を後にして１階の現場を見て歩き、２階に上がりながら、この工場はハイカラ工場だ、内部で見ても外から眺めてもなかなかしゃれている、外国の元首の訪朝を受けた場合も見せることができるだろうと言った。
　ついで委員長は、外国へ経済代表団として出かける人たちが当工場を見学した上で出発するようにするとよい、われわれのもののレベルがどの程度かをよく知り、われわれのものへの自負を抱かせるようにすることだと語った。

わが党の望む近代化

　２階の豆酸乳職場で、オートメ化のレベルが非常に高い、気持ちがいいと言った委員長は、平壌幼児食品工場を幹部たちに見せることだ、そうして彼らが、時代の要請であり、党が望む近代化を実現するにはまさにこの工場のように、われわれの力、われわれの技術をもってすべきだということをはっきりと認識するようにしなければならないと語った。
　われわれの力と技術をもってつくり上げたことにそんなにも満足している委員長に向かって、まわりの幹部たちはこもごも報告した。
　・幼児用粉ミルク移送定量供給弁は高度の精密度が求められており、これだけはわれわれの技術では及びも付かないと主張していたのだが、平壌紡織機械工場が立派に製作した。
　・熱風乾燥炉は理科大学でつくった。
　・栄養粉の自動包装機は平壌機械総合大学の研究士たちが設計し製作した。

・ポリ袋包装機もわれわれの力でつくった。

さまざまの自慢の種を一つでも抜かしてはと、我勝ちに説明する人たちを微笑して見回しながら委員長は語った。

・われわれの科学者、技術者たちがその気になって取り組めば、どんなものでもみなつくり上げるだろう。

・昨年来てみたとき、素手で行っていた作業がオートメ化されている。決心すれば不可能なことはない。実に気持ちがいい。

生産現場を具体的に見て回った委員長は、工場をまさにハイカラ工場に仕上げた、他のいろいろの工場も見ているが、この工場でのように、最後の包装工程まで近代化された例はない、他の工場における近代化の状況を見ると、概して最後の包装までオートメ化されるには至っていない場合が少なくないが、この工場ではオートメ化が完全になされているとして、こう続けた。

「私が何にも増して満足しているのは、平壌幼児食品工場の近代化で設備の国産化を実現したことです。工場の近代化を通して生産性を高め、生産工程の衛生学的裏づけを整えたことも重要ではあるが、設備国産化の比率を高めたことが最も重要な成果であり、それこそが工場近代化の核心です」

革命の未来を象徴する黎明通り

2016年３月17日、金正恩委員長は新たに建設される黎明通りの模型と形成案、鳥瞰図、住宅及び公共建築の新築・改築設計案などが展示されている金日成総合大学前の道路へやってきた。

委員長は幹部たちを見回して、今日は世界に対して今一つの新市街建設の開始を宣言することになる、ここ数年間われわれは20数年分に相当する建設を目覚しく進めてきたではないかと語った。

黎明通りの建設を宣言し、建設における
綱領的課題を示す金正恩委員長

錦繍山（クムスサン）太陽宮殿と龍南（リョンナム）山の方をしばらく眺めていた委員長は、前にも言ったことだが、朝日が昇る龍南山から革命の黎明があけ染めるという意味でもそうであり、未来の建築を志向するという意味でも市街の名称を「**黎明通り**」とするのがよかろうと、謹厳な面持ちで言った。

委員長は黎明通りの建設は金日成同志と金正日同志が永生の姿で安置されている太陽の聖地錦繍山太陽宮殿の周辺をいっそう丁重に整え、党の主体的な建築美学思想、チュチェ建築芸術の実相を今一度世界に誇示するきわめて重要な出来事となる、黎明通りが建設されれば、教育者、科学者、人民が享有することになる、より開けた文化生活条件を具備した人民の住宅地区がまた一つ生まれ、革命の首都平壌を文明国の中心地として完成するのに大きく寄与するであろうと言った。そして、現時点において黎明通りを建設することは格別な意義を持つ、黎明通りの建設宣言は原爆以上に大きな威力を示威することになるであろうと、力を込めて言った。

感動にかられている幹部たちを見つめていた委員長は、黎明通りの建設はわれわれの国力を今一度世界に誇示する重要な政治的

契機となる、強大な経済力なしには現在の環境と状況の下で黎明通りのような市街を建設するなど及びもつかないことだ、本年に黎明通りの建設を行うこと自体がわれわれの経済的潜在力の一つの誇示になるのだと語った。

続けて委員長は、黎明通りの建設は単に新市街を建設する経済実務的事業ではなく、重要な政治活動である、われわれは黎明通りの建設を通してわれわれの力と意志を全世界に誇示し、人民には勝利の確信を抱かせなければならないのだと、重ねて強調した。

こうして翌2017年４月、金日成主席の生誕105周年を迎え、黎明通りの落成式が盛大に執り行われた。

金正恩委員長の戦闘的な呼びかけに力強く応えて、人民軍部隊と人民は、黎明通りの建設は単なる市街の建設ではなく、国の強大さと国力を誇示する社会主義祖国の尊厳死守戦、社会主義守護戦であるとし、膨大を極めた北辺の災害地の復旧にも取り組みながら、党が提示した期限内に、党が求めたレベルで、黎明通りを立派に建設したのである。

3. 未来を花咲かせる崇高な愛

・未来を愛せよ
・子供たちの無邪気な願いにも喜んで応じ
・大会の席上で新生児の名付け親に
・若年の女性看護兵たちに与えた「重任」
・心からの願い
・われわれの製品——
　　急降下ウォータースライダー
・白頭山英雄青年発電所とともに
・「娘母親」
・平壌幼児食品工場にて
・何ものをも惜しむべきではない

未来を愛せよ

金正恩委員長は2012年、全国各地の少年団員2万余名を首都平壌に呼び、朝鮮少年団創立66周年慶祝行事を盛大に催すことを計画した。

特大措置

委員長は、朝鮮少年団創立66周年慶祝行事を成功裏に進める上で必要な一切の問題について一つひとつ丹念な指示を与えた。

今度の行事は例年になく大きな規模で進められるのであるから、青年同盟にのみ任せず、党が積極的に後押しすべきだと強調した委員長の意向に沿い、航空運輸部門は少年団員たちを運ぶ旅客機を、首都の旅客運輸部門は高級バスを待機させ、鉄道運輸部門は特別列車を編成した。

祖国防衛の重任を担当している人民軍も子供たちのために新車を提供し、行事期間に要するガソリンも別途に準備した。

人民保安部門では、少年団員たちが利用する鉄道と行事場、見学予定地の状態を責任幹部たちがじかに現地確認し、必要な対策を講じ、保健医療部門は有能な医師たちが少年団員たちと行動を共にしながら彼らの健康を格別に見守るようにする万端の準備を整えた。

そればかりか、党中央委員会の活動家や人民軍の作戦指揮幹部までもが各道の集合場所におもむいて、少年団の代表を賓客として遇し、責任をもって引率する対策も立てられた。

こうしてそれまで汽車とはほとんどなじみのなかった子供たち、70%以上が平壌は初めてだという子供たちが、特別列車や旅客機、バス、船に乗り込み、続々と平壌に向けて出発した。

金正恩委員長は、代表たちの出発時には道、市、郡において盛大な歓送会を催し、平壌に到着後は行事を党代表者会議のレベルで行うようにする特大措置を講じた。

文字通り全国が、幼い少年団員たちを歓送し、歓迎する熱気にあふれた。

委員長は、少年団の代表たちが慶祝行事期間なんらの不便もなく生活できる一切の条件が完備している4・25旅館に宿を取り、とりどりの美味な料理、高級飴菓子類に清涼飲料を楽しみながらすごせるようはからった。

そそぐ慈愛は果てを知らず

待望の6月6日、首都平壌の金日成競技場では朝鮮少年団創立66周年慶祝朝鮮少年団全国連合団体大会が盛大に開催された。

金正恩委員長は大会に臨席して祝賀演説を行い、大会に参加した少年団員たちみなさんの頼もしい姿と愛らしい顔を見ると、平壌へ発つみなさんを温かく見送った少年団員の友達や先生、父母兄弟のみなさんすべてに会っているような思いがします、わが党と共和国にとって、愛する少年団員のみなさんは億万金の金銀財宝にもまさる貴い宝であり、希望と未来のすべてです、わが党はみなさんに、この世で一番素晴らしい社会主義強盛国家を建てて贈ろうとしていますと述べた。この言葉に少年少女ばかりでなく大人たちもみな目頭を熱くした。

この日、委員長は休憩室で少年団の代表たちに会い、彼らの将来の希望をいちいち尋ねては心から祝福し、記念写真も撮った

朝鮮少年団創立66周年慶祝行事の代表たちと
ともにいる金正恩委員長

上、夕方は彼らとともに特別に準備した朝鮮少年団創立66周年慶祝音楽会『未来を愛せよ！』を観覧した。

音楽会の終了に続いて首都の夜空には、少年団の祝日を祝う花火が打ち上げられた。

元来この日の音楽会は午後4時に始める予定であったが、委員長は子供たちが少年団の創立記念日をもっと楽しく過ごせるようにしようといって、公演の時間をずらし、終演直ちに花火の打ち上げを行うようにしたのであった。

委員長は、行事期間における少年団代表のための見学やサービスの手配にも深い関心を向けるべきだとして、彼らが毎日平壌の由緒ある名所を巡ったり、各種のサービス施設などで楽しいひと時を過ごせるようにした。

ほかにも、260余名もの少年団代表たちの誕生日を祝ってそれぞれお祝いの膳を贈り、行事期間に発行された『少年新聞』を2万部増刊して、代表たち全員に配布し、帰郷する際持ち帰るようはからった。

委員長は、６月７日、錦繍山太陽宮殿広場で実に20回も撮影台の席を移して代わる代わる少年団代表たちと共に記念撮影を行い、彼らが帰り支度を急いでいるときは、高麗（コリョ）航空総局の責任幹部に安全を確認した上で旅客機を飛ばし、飛行指揮を最後まで責任をもって行うべきだと繰り返し強調した。

子供たちの無邪気な願いにも喜んで応じ

2012年11月３日、金正恩委員長は、落成式を控えた人民屋外スケートリンクを視察した。

広々としたすがすがしい大同江畔に建設されたアイススケートリンクでスケートに興ずる勤労者や子供たちの姿を眺めなが

ら委員長は、先端技術が導入されたこのスケートリンクでは勤労者や青少年学生が夏季にも半袖シャツ姿でアイススケートを楽しむ、目新しい風景が見られるようになったと言って、喜んだ。

委員長は銀盤の状態に関する人々の反響についても耳を傾け、人民屋外スケートリンクは世界一流のレベルになる、今日は時間を少々かけても子供たちがスケートを楽しむ様子を見ることにしようと言った。

そして、あの子たちはみな可愛らしく、スケートもなかなか上手だとたたえて彼らを呼び、名前や年齢も尋ねてみ、もう一度見たいからまた滑ってみるようにと言った。

すっかり気を良くした子供たちの自信たっぷりな銀盤上の滑走ぶりを楽しげに眺め、あの子たちはスケートを習い始めて１カ月ほどにしかならないというのに、なんてあんなに上手なんだろう、今大人たちは世界の趨勢についていけずにいるが、子供たちはそれこそ世界一流のレベルに達していると笑いながら言った。委員長はスケートを乗り回すあの子たちの姿はわが国のスポーツの未来がいかに洋々としているかを見越せる素晴らしい風景ではないか、近代的な養鶏工場で鶏卵が次々と生み出されているように、今後人民屋外スケートリンクからアイススケートの選手候補が続々と輩出するだろう、人民屋外スケートリンクの出現で体育相がいい目を見ることになったと言って、豪快に笑った。

やがて委員長は、子供たちにスケートを続けて乗るようにと言って、リンクを後にしようとした。

この時、その場にじっと立っていた4歳ばかりの男の子が委員長の前に駆け寄り、「元帥さま！　写真を撮ってちょうだい」と甘えて言った。

とっさの出来事に随員たちははっとして戸惑ったが、委員長はおおように笑い、その子の手を取って銀盤上に引き返し、他の子たちも呼んでみな一緒に記念写真を撮った。

人民屋外スケートリンクで子供たちと
記念写真を撮る金正恩委員長

大会の席上で新生児の名付け親に

2014年４月、金正恩委員長の臨席の下に開かれた朝鮮人民軍第１回航空兵大会は議事日程を順調に終えて閉会を宣した。

ところで、いったん立ち上がった委員長がそのまま自席に腰を下ろした。何事かと緊張している大会参加者に向かって委員長は口を開いた。みなさんと一つ相談したいことがある、実は先日、某飛行連隊を視察した際、一女性航空兵の新生児の名付け親になろうと約束したのだったが、まだその約束を果たせないでいる、まことに申し訳ない、と。

場内は激情にどよめいた。

この３月６日、くだんの飛行連隊を訪れて、女性航空兵たちの飛行訓練を指導した委員長は、夫婦航空兵はみな家事より国事を重視する愛国者だと高く評価し、私が平壌に帰ってからも、みなさんのことを思い出したらいつでも取り出して見られるよう、夫婦航空兵の家庭ごと別々に写真を撮ろうと言った。

こうして、自分たちの番が来た例の航空兵夫婦も記念写真を撮ったのであったが、女性航空兵は何かもじもじして、すぐにその場を離れようとしなかった。生まれたばかりのわが子の名を付けていただきたいとお願いしたかったが、あえて口には出せず、顔ばかり赤らめていたのである。そんな様子に部隊長が委員長に、この女性航空兵は先日男の子を産んだばかりですが、最高司令官同志に名付け親になっていただきたいと願っているようですと口ぞえした。

委員長は随員たちを振り返り、**「どうです。この部隊に来ると思いもよらぬことばかり要求されるのだからね」**と言って豪快に

朝鮮人民軍第１回航空兵大会を指導する
金正恩委員長

笑った。そして彼女に向き直り、名付け親になって欲しいと言うんだな、では少し考えてみて、２日後には名を付けて知らせることにしよう、と約束したのであった。

まごまごしながらその日のことを思い返していた女性航空兵は、委員長の視線が自分に注がれていることに気付き、あわてて立ち上がった。

子供の名はまだ付けていなかったのかという質問に彼女は、最高司令官同志が名付け親になってくださるとおっしゃったので、まだ付けていませんと答えた。

委員長は、まだ名前を付けていないならここで付けることにしようと言って、こう続けた。

「お子さんが将来飛行機に乗るかどうかは分からないが、航空兵になって祖国の空を守ればよいし、他の職務についても汚れのない良心を持って党に忠誠を尽くし、いちずな愛国心に燃え祖国の繁栄をめざして一生忠誠の一筋道を変わりなく歩めという意味で、名を李忠道（リチュンド）とすればどうだろうかということです」

大会参加者は一斉に立ち上がり、割れんばかりに歓呼した。

航空兵夫婦は感極まり、頬を涙でぬらしながら委員長を仰いで幹部壇に駆け上がり、熱い誓いを立てた。

「敬愛する最高司令官金正恩元帥、本当にありがとうございます。私たちの家は今日のこの光栄を永遠に忘れず、代をついで、息の続く限り最後まで天翔る忠誠の赤い鷹になります」

若年の女性看護兵たちに与えた「重任」

2014年５月、金正恩委員長は、大城山（テソンサン）総合病院で保養治療を受けている育児院と愛育院の院児たちを見舞った。

この２月、全国の育児院および愛育院の実態調査報告を受けた委員長は、平安南道（ピョンアン）の育児院と愛育院に虚弱児たちがいると知り、その子たちを大城山総合病院に入れて保養治療を行うよう人民軍に任務を与えていたのである。

委員長は、甘えてまつわりつく子たちを抱きしめては、血色がよい、栄養状態も上々なようだ、みな丸々として元気なので本当に気持ちがいいとして、たいそう喜んだ。

委員長は、周りの若い看護兵たちに目を向けて、みんなまだ嫁入り前なんだろうと言った。

そうですという答えに委員長は微笑み、**「君たち、もう嫁入り支度はできたようなもんだね」**と言った。

随員たちの中におかしそうな笑いが起きた。

「実に偉い。偉いもんだ。まだ娘の身で幼子たちの世話を焼くなど並大抵のことではなかろうに」とたたえる委員長。

子供たちを１人で２、３人ずつ受け持って母親代わりに一切の面倒を見なければならなかったので、その苦労は並大抵でなかったし、子供たちが病気にかかると、心配のあまりやせ衰える娘もいましたという病院の一幹部の言葉に委員長は、看護兵たちを頼もしげに見回して、**「けなげなものだ。わが軍人たちは確かに頼むに足る」**とたたえた。

委員長が今一つの部屋に移り幼児たちの様子を見ていた時、感激のあまり目に涙を浮かべた一看護兵が幼児を抱いたまま小躍りしていた。

その動きに伴って幼児の頭が上下に揺れているのを目に止めた委員長が笑って、赤ちゃんをそのように抱いては首が痛むと言い、彼女の右手が幼児の首を支えるように直してやった。そして、**「赤ちゃんはこんな風に抱かないといけない。ここにいる看護兵たちはみな若い娘なので赤ちゃんの抱き方を知らないようだ。それでこの看護兵たちみんなに花嫁修業をさせようとしてこ**

大城山総合病院を現地指導する金正恩委員長

の重要な任務を任せることにしたのだ」とにこりとして言った。
座中は笑いの波で揺れた。
委員長は今一度看護兵の右手を幼児のうなじの上まで引き上げてやりながら「**このように気持ちよく首を支えて抱かないとね。みな生みの母親のような心情で最後まで赤ちゃんたちを立派に育てるのだよ**」と念を押した。

心からの願い

2014年６月６日の朝鮮少年団創立68周年記念日。
この日万景台（マンギョンデ）革命学院を訪れた金正恩委員長は、学院の院児たちをお祝いすべくやってきた、6・6節を記念して教職員、院児たちと一緒に写真を撮ろうと言った。
熱狂的な歓呼の中で、撮影台の上に並んでいる院児たちの方へ歩みを移していた委員長は随員たちを振り向き、あの子たちはみな涙を流しながら万歳を叫んでいるが、私に会えて喜んでいるのだ、院児たちは今日のようなめでたい日には父親たちのことをいっそう切なくしのぶだろうと沈んだ声で言い、撮影台の前では写真を撮らねばならんからもう泣くのは止めるようにと手で制した。
学院の責任幹部が前列に並んでいる子たちを一人ひとり紹介した。
院児の一人ひとりにうなずいて見せながら歩いていた委員長は、なおも涙で頬を濡らしている院児たちの一人に近づいてその手を取り、「**会って嬉しいはずなのになぜ泣くんだ。泣くんじゃない**」と言った。
その隣で涙を流しながら万歳を叫んでいる子の前に歩みを移し

朝鮮少年団創立68周年に際して万景台革命学院を
訪問する金正恩委員長

てはその頬をさすりながら「こんなに会えて喜ばにゃならんのに、泣くなんて……。お前があんまり泣くもんで、私の心も泣けてくる」とぬれた声で言い、ハンカチを取り出して目じりをぬぐった。

その隣の子の頬の涙を拭きながらも、写真を撮らなきゃならんのだから、それくらいにするのだ、と目をしばたたかせて言った。

最初の撮影台での記念撮影を終えて委員長は次の撮影台へ向かったが、その時、撮影を終えた院児たちが台から駆け下りてどっと委員長の周りに群がり、「お父さん！」「お父さん！」と叫んで泣きじゃくった。

委員長は「この子たちはお父さんのことが思い出されてならないのだろう」と言い、院児たちを押し戻そうとする人たちに「いいから構わないでおきなさい。子供たちが転んだら大変だ。この子たちは金日成同志と金正日同志をたまらなく懐かしんでいるからこそああまでしているのだろう」と言った。

記念撮影が終わると、院児たちは約束でもしたかのようにまたしても「お父さん！」「お父さん！」と叫びながら委員長を取り巻いた。

今度も随員たちは、彼らを制止しようとしたが、委員長は、院児たちの行動を気にすることはない、常日頃金日成同志と金正日同志を心からしたい、私に会いたいと切望している院児たちのことを思うと目頭が熱くなる、と言った。

その言葉に幹部たちも目を潤ませた。

この日、委員長が心から願っていたことは次のようなことであった。

「今一度強調しますが、革命学院は金日成同志と金正日同志の孫、孫娘であり、革命の貴重な宝である院児たちを、金日成同志と金正日同志に似た真の革命家に育てなければなりません」

われわれの製品——
急降下ウォータースライダー

金正恩委員長は子供たちの夏のキャンプ生活条件をわが目でじかに確かめるべく、2014年７月５日、松涛園(ソンドウォン)国際少年団野営所を視察した。

われわれのものがよい

野営所の全景をしばらく見回していた委員長は、螺旋型ウォータースライダーの水槽の先にある急降下ウォータースライダーの前へ歩みを移し、水平走路に手を触れてみながら、松涛園国際少年団野営所に新設したこの急降下ウォータースライダーは今度わが国で初めて製作したものだが、遊戯娯楽器材もわれわれ自身の力でつくったのだから、なんと素晴らしいことではないかとしてたいそう満足した。

そして、今後遊泳器材をいろいろな形で設計すべきだと言って、第4期キャンプ生活では子供たちが急降下ウォータースライダーに乗ってみたのか、と野営所の幹部に尋ねた。

器材の設置が間に合わず、その期のキャンプ生たちは乗れなかったと聞いた委員長は非常に残念がり、次期からは急降下ウォータースライダーの運営に力を入れることだとして、「**われわれは松涛園国際少年団野営所に子供たちの笑い声が満ちるようにしなければなりません。子供たちの笑い声は、われわれには未来への楽観と確信を抱かせるが、敵には恐怖をもたらします**」と語った。

松涛園国際少年団野営所を現地指導する
金正恩委員長

その後、野営所の処々を見て歩いた委員長は、屋外遊泳場に再びやって来て、幹部たちに急降下ウォータースライダーに乗ってみるようにと言った。

子供たちがたとえわずかなりとも傷つくようなことがあってはと、器材の安全性を確かめるためであった。

ウォータースライダーを滑り落ちる彼らの姿に見入っていた委員長は、実に素晴らしい、外国産のものよりわが国の製品の方がずっといい、今後遊泳器材をさまざまの形態でつくるようにすべきだと言った。

委員長は、今度われわれの力と技術で急降下ウォータースライダーをつくってこの遊泳場に設置したわけだが、われわれのものは確かによい、急降下ウォータースライダーに「大同江」というわが国の標識が付いているのもよく、スライダーの上に屋根を設けたのも見栄えがしてよいと言った。

深くも細やかな心配り

急降下ウォータースライダーの水平走路の内部を注意深く見た委員長は、ウォータースライダーの内面は滑らかだが、外面は粗いと指摘し、さらに腰をかがめて水平走路下側に固定されている受け枠を仔細に見ては、ここが弱そうだ、自分の考えでは走路の両脇に盛り土をして芝を植えるといいのではないかと思うと、弱点の是正対策まで語った。

それでも安心がゆかず、受け枠を指差して、どう見てもこの部分が弱いから、きっと盛り土をして芝を植えるべきだと今一度強調した。

この時ウォータースライダーを滑り降りた随員が水槽から上がってきた。

乗り心地はどうだったかと尋ねてその安定性を確かめた委員長は、はじめて安心したかのように、よろしい、続けて乗りなさいと言ってから、それでもなお心配そうに水平走路にしばらく目を向け、その長さを見計らいもした。

そして、急降下ウォータースライダーにまた目を凝らしてから、青年はあんなものを好むはずだといって水平走路の横手にあるダイビングプールの前へ歩みを移し、随員たちに飛び込み台に上がってダイビングしてみるようにと言った。

彼らのダイビングする様子をしばらく眺めていた委員長は、再び急降下ウォータースライダー水平走路の前へ戻り、滑り降りてきた随員に、連結部の障り具合はどうか、痛くはなかったか、と聞いた。

別になんともなかったという答えに委員長は、外国ではウォータースライダーの連結部をシリコンで処理しているが、われわれのものは一体化している、それ一つを見てもわれわれのものの方が優れていることが分かると誇らしげに言った。

白頭山英雄青年発電所とともに

青年の歩みの速さは祖国の前進速度

2015年４月19日、金正恩委員長ははるか遠く北辺の険路をたどって白頭山（ペクトゥサン）英雄青年発電所の建設現場に赴き、現地指導を行った。

委員長は突撃隊指揮メンバーの一人ひとりの手を取り、三池淵（サムジヨン）郡からここまで来るのに1時間半もの時間をかけた、道路の状態が悪くて自分さえ大変な思いをしたのに、金正日同志がこんな道も気にかけず発電所建設の現地指導を行ったのだから、その労苦はいかばかりだったろうか、このような所にまで金正日同志がお出でになったと思うと、胸が痛むと熱い思いをこめて語った。

全景図の前で説明を受けた後、委員長は、建設現場の処々を見て回り、工事の状況や突撃隊員の生活状態を具体的に確かめた。

委員長は、青年突撃隊が不利な条件と環境の下で基本建設対象である第１号発電所コンクリートダムの築造工事を強力に進めながらも、第２号発電所用水路トンネルの貫通工事も最終段階で進めるなど、発電所の建設を立体的に繰り広げていることと、発電所の建設と並んで浸水地域から立ち退く住民用の数百世帯分の住宅を建設したことに大きな満足を表した。

委員長は、突撃隊が静養所および給養物資の補給地を自力で立派につくって運営を正常化し、突撃隊員たちのための生活条件を十分に整えており、青年突撃隊員たちが党と領袖の偉業を実践的に支えるべく、燃えるような忠誠心を抱き、国の電力問題の解決

白頭山英雄青年発電所の建設現場を現地指導する
金正恩委員長

に積極的に貢献しようという熱意を持って大規模水力発電所の建設で奇跡的な成果と偉勲を生んでいることを高く評価した。

委員長は、発電所の建設現場にやって来て、わが党を積極的に支持し、一意専心党に従って前進しようとする青年突撃隊員の思想・精神状態に接して大きな力が湧いた、あたかも千軍万馬を得たような思いだ、自分が今日青年たちに、私は青年を信じ、青年は私を信じて強国の建設を一日も早く終えようと訴えたということを伝えてもらいたい、と熱っぽく語った。

続けて委員長は、随員や突撃隊の指揮メンバーを見回して、青年の歩みが速いと祖国の前進速度も速くなる、朝鮮労働党創立70周年まで第１号および第２号発電所の建設を立派に完成することで、わが党の70年の歴史が青年重視の歴史であることを世界にはっきり見せるものと信じて止まないと語った。

英雄青年神話

その数カ月後の９月13日、委員長は白頭山英雄青年発電所を再び訪れた。

４月の現地指導に痛く感激した青年突撃隊員たちは、最高司令官の命令で投入された人民軍部隊と緊密に提携して獅子奮迅の突貫工事を繰り広げ、過去10年間になした実績をはるかに上回る膨大な建設課題をなんとわずか4カ月余りで完遂し、水力発電所の建設史上類いのない誇らしい成果を収めたのである。

委員長は突撃隊の指揮メンバーを見回して、第１号発電所ダムの築造工事を先月８月28日の青年デーに際して完成したのは、白頭山地区で奇跡が生まれたことを意味する、われわれの青年たちは実に偉い、世界を驚かす英雄青年神話を生んだではないか、わが党の下で育った朝鮮青年のみが生み出せる神話なのだと語った。

委員長は、白頭山の希世の偉人たちをたたえる革命事績標識碑を見てから、建設中の教育室に足を運び、発電所の建設で発揮した青年たちの偉勲は、わが党の歴史に誇り高くしるし伝えるべき貴重な財宝であるとし、教育室を正式に「**白頭山英雄青年偉勲展示館**」と命名した。

次いで委員長は高々とそそり立つ第1号発電所のダムを位置を替えながら眺め、ダムに上がって歩んでも見、素晴らしい、実に勇壮だ、美男子さながらの趣だ、見上げると衝天の勢いにある青年たちの気象を見るようであり、遠方から眺めると党中央を擁護するとりでで、盾をなした青年大軍の雄姿を目前にしているかのようだと感無量の面持ちで語った。

青年に恵まれている

委員長はそれから半月余り後の10月３日、白頭山英雄青年発電所を再び訪れた。

委員長は、英雄青年神話が生み出された白頭山に連なるここ発電所の建設現場で頼もしい青年たちは、愛国衷情の貴い血と汗を流し、決死貫徹の精神をもって青春大記念碑を全世界にこれ見よがしに高々と建て、党中央の期待に立派にこたえたと言った。そして、１、２年でもない長い日々、肌を刺すような北辺の厳寒の中でハンマーとかなてこを用いて天然の岩盤を打ち砕き、山を崩してダムを築き上げ、水路トンネルを開削した突撃隊員たちの労働の偉勲はいかなる言葉で形容できようか、酷寒に運搬手段まで凍てつけば手押しそりや引きそりをもって輸送を絶やさず続けた突撃隊員や西頭水(ソドゥ)の氷のように冷え切った水中に飛び込み全身を「氷の柱」にしてレールを支えた決死隊員など、発電所の建設に挺身した青年たちの革命性と犠牲的精神、愛国心の前では誰もがこうべ

完成された白頭山英雄青年発電所を訪れ、
青年たちの歓呼に応える金正恩委員長

を垂れるであろう、と語った。

委員長は、世界にわが国の青年のように、人跡まれな山奥に進んで身を投じ、党の意図を花咲かせ、そこに生き甲斐を覚える青年たち、自分たち自らが「白頭青春大学」なる教育課程を作成して毎日、毎時、良心の点数を付けながら自らを革命的に修養していく、そんな立派な青年はいない、革命の行く手に試練と難関が立ちはだかるたびに、私の心の奥には、白頭山英雄青年発電所建設現場に勇躍馳せ参じて人生の第一歩を踏み出し、白頭の大地に愛国のシャベルを入れ、血と汗をささげることで青春大学の卒業証書を手にした青年たちが柱として立っていた、と熱い思いをこめて語り、現在、世界的に青年問題が最大の難問となっているが、わが国の青年は労働党の心の支え、揺るぎない支点になっている、わが党は確かに青年に恵まれていると高く評価した。

「娘母親」

2015年、平壌で開かれた第２回全国青年美風先駆者大会の壇上で発言した青年の中には、７人ものみなしごを引き取って育てている当年20歳の南浦市千里馬区域社会給養管理所の労働者張正花さんもいた。

発言者の中で最年少の若い娘が、「娘母親」という世にも珍しい呼称をもってわれわれの時代の青年美風先駆者の最前列に立っていることに人々は強烈な感銘を受けた。

金正恩委員長は彼女の美しい行いを大いにたたえた。

「……20歳の花盛りに７人ものみなしごを親身になって慈しみ育てている『娘母親』の行いは、万人を感動させる立派な美徳です」

記念撮影を前にして模範的な青年美風先駆者たちを側近に呼んだ委員長は、張正花さんの手を温かく取り、父母のいない子どもたちを7人も引き取って育てているそうだねとたたえた。涙を抑えることができず、肩をふるわしている彼女に、お母さんが泣くなんて、7人もの子を育ててはいてもやはり年は年だね、でも、なんて奇特なことだろう、お前は娘母親だよ、と言って彼女の肩を軽くたたいた。

そして、「娘母親」という言葉はただわが国でのみ生じうる言葉だ、外国ではこんな美しい行いは想像すらできないだろう、と語った。

張正花さんが18歳の年で社会給養管理所の労働者として社会生活の第一歩を踏み出した2013年１月のある日、その日も彼女は母親が名誉戦闘員として働いている鋼鉄職場の支援に出かけた。

職場へ着いたとき、彼女は場所に似合わず、そこに少年団のネ

クタイを結んだ３人の子どもたちがしょんぼりたたずんでいるのを目に止めた。

不審な思いで尋ねてみたところ、その３人の兄弟の父親は鋼鉄職場の労働者であったが病死し、同じ職場にいた母親まで職場で殉職したというのである。それで鋼鉄職場の労働者たちは、自分たちの職場に勤めていた労働者夫婦の子だからその面倒を自分たちが見るべきだとして、両親に代わって世話を焼いていたのであった。

その夜、彼女は寝床についたが、３人兄弟の姿がまぶたにちらついて眠れなかった。彼らのことを気遣う鋼鉄職場の労働者たちの心配そうな姿が胸中を去来し、育児院や愛育院の孤児たちを思って気苦労の絶えない金正恩元帥の姿が思い浮かんだ。彼女は、自分が母親代わりは無理だとしても、姉の役割ぐらいは果たせるはずだ、と考えた。

こうして３人兄弟は彼女の家庭に引き取られ、日ならずしてさらに４人のみなしごがそこに加わることになった。彼らの中には２歳の男の子もいた。

７人もの孤児を育てながらも彼女は、自分のとてつもない決心

と行為が、なんらかの美徳だなどとはまるで考えもしなかったし、果たしてそれは可能だろうかという危惧の念を抱くこともなかった。ただお国のために親のいない７人の子を自分が責任を持って育てなければと決心し、それは自分の当然の務めだと考えただけであった。そのような覚悟、決心を抱いたからこそ彼女は、平凡な人には及びもつかない精神的・肉体的苦痛にも甘んじ、わずか２年にして、他人は一生をかけても到達し得ない高くも高い精神的・道徳的境地に達し、全国が感嘆して止まない「娘母親」に押し立てられ、われわれの時代の最も美しい花とうたわれるようになったのである。

平壌幼児食品工場にて

金正恩委員長は、2015年11月13日、平壌幼児食品工場を現地指導した。

子どもたちの笑い声を守ろう

豆乳職場に続く階段の前で足を止めた委員長は随員たちに、金正日同志のはからいであの「苦難の行軍」、強行軍の時期にも当工場の生産は正常に進められたが、現在われわれに何が不足でこの工場を休まずに動かせないなどと言えようか、どうあってもこの工場に必要な原料と資材は責任を持って提供しなければならない、そうしてこの地に金日成同志と金正日同志の崇高な次世代愛、未来愛の歴史が変わりなく流れるようにしなければならないと語った。

委員長はやや間を置いてから、平壌幼児食品工場は、工場の近代化を遂げた成果を踏まえて生産の正常化に特別な力を傾けなければならない、そうして生産正常化の動力音が間断なく響くようにしなければならない、この工場が生産の正常化を維持して子どもたちに豆乳を欠かさず飲ませようというのは金正日同志の遺訓である、工場の生産正常化問題は単なる経済実務的な問題ではなく、金正日同志への道義にかかわる問題である、子どもたちに高栄養の食品を欠かさずに供給し続ければ、彼らの笑い声はいっそう高まるだろうし、人民は子どもたちの幸せに満ちた笑い声から社会主義の勝利を楽観することになるのだとして、こう続けた。

「……平壌幼児食品工場の幹部や従業員は、豆乳をはじめとする幼児食品を大量に生産し供給することで、子どもたちの笑い声を守らなければならないのです」

委員長は工場の幹部たちに向き直り、生産正常化の動力音を絶えず高く鳴らし、子どもたちの笑い声を守って第7回党大会を意義深く迎えるべきだ、われわれは子どもたちの笑い声を守ることで、人々に社会主義偉業の勝利を楽観させなければならないと、改めて強調した。

製品の質についての評価基準

製品サンプル室で委員長は、陳列された500グラム入りの栄養重湯粉1袋を手にして、包装が立派になされている、去年来てみたときとはまるきり違っている、童心の世界にふさわしく商標にも工夫が凝らされ、包装も上々だとたたえた。

ここで、今では平壌市に出回っている食品は外国のものより国産のもののほうが多いと言う一幹部の言葉に委員長は、それをわれわれの食品のレベルが上がったものとのみ考えるべきではな

平壌幼児食品工場を現地指導する金正恩委員長

い、もちろんわが国の食品が多く売れていることは確かだが、製品の質が世界的なレベルに到達しているからそうなったではないことをはっきりと知るべきだ、平壌幼児食品工場は今では生産工程の近代化と製品の分析システムが確立し、製品の栄養学的・衛生学的要求に十分こたえうる裏づけが整っているのだから、これからはより美味な製品をつくることに努めなければならない、風味において外国と競争すべきであるとし、こう続けた。

「子どもたちの口はだませません。子どもの舌以上に鋭敏なものはありません。赤子は話すことはできなくても味は区別します。同じような粉ミルクであっても、赤子が当工場のものよりも外国のものを好めば、この工場の製品はおいしくはないということになります。大人なら、食糧事情が厳しいのだからまずくても食べなくちゃと言われたら承知して食べもしましょうが、幼児の場合はそんな風にはいきません。平壌幼児食品工場の製品の質の評価基準は幼児たちが喜んで食べるかどうかにあります」

ついで委員長は、製品陳列台に置かれた世界各国の製品のサンプルに目を通し、発達した国の優れた製品を入手して比較、分析し、製品の改良・開発に努めるべきだと語った。

何ものをも惜しむべきではない

2015年11月30日、金正恩委員長は新世紀にふさわしく立派に新装された万景台学生少年宮殿を視察した。

委員長は宮殿の全景を見渡して、世界に向けて大いに誇ることができる、宮殿の外壁を花崗岩板で装ったので品位がいっそう高まって見える、万景台学生少年宮殿はわが党の次世代教育政策の正しさと、わが国社会主義制度の威力と優位性を全世界に力強く

新装なった万景台学生少年宮殿を現地指導する
金正恩委員長

誇るに足る記念碑的な建築物だ、万景台学生少年宮殿のような建物は、外国では建設することも真似することもできないだろうと言った。

委員長は、宮殿内に金日成同志の崇高な次世代観、未来観、革命観が脈打っている意義の深い親筆命題が立派に記されている、珠玉のような親筆の一字一字を読んでみると、金日成同志と金正日同志が子どもたちをどんなに深く愛したか胸に熱く感じられるとしみじみとして語った。

ついで新装の革命事績教育室を見て歩いた委員長は、宮殿では革命事績教育室における教育に力を入れて、教職員やサークルの子どもたちが金日成同志と金正日同志の指導業績に通暁するようにし、彼らが金日成同志と金正日同志、それにわが党の次世代愛をはっきり体得して、自分たちがどんなに優れた宮殿で心ゆくまで学び、才能のつぼみを花咲かせているかをしっかり知らしめるべきであると語った。

委員長は続けて、子どもたちを国の「王様」と呼び、次世代への愛を党と国家の第一の重大事として、新年を迎えるたびに宮殿で子どもたちと一緒に踊りもすれば、彼らの迎春公演も観覧した金日成同志と、子どもたちの幸せに満ちた未来を祝福して美しい

木々を手ずから植えた金正日同志のような方たちはこの世にいないと語った。

委員長は、その後万景台学生少年宮殿の処々を見て歩きながらこう語った。

「われわれは子どもたちのためなら何ものをも惜しんではならず、その明るい笑い声を守らなければなりません」

この日委員長は、万景台学生少年宮殿が立派に新装されたのだから、落成式を世間にこれ見よがしに盛大に挙行しようとして、落成式と関連した指示を与えた。

4. 祖国の守護者、人民の幸福の創造者として

- ·誰も知らなかった
- ·椒島の歓呼
- ·人民軍の気概を示せ
- ·軍人があっての最高司令官である
- ·人民の軍隊として
- ·命令ではなくお願い
- ·革命を行う目的
- ·勇士たち墓の墓主
- ·軍人たちとの約束
- ·わが党の娘、わが党の嫁
- ·祖国と人民の誇らしい娘
- ·羅先の奇跡

誰も知らなかった

2012年１月20日、金正恩委員長は生きのよい１匹の魚を車に乗せて、ある空軍部隊を訪れた。

その魚は重さが60キロを越えるほどの、コクレンと呼ばれる大魚で、数人がかりでないと持ち上げられそうにもないものだった。

コクレンはコイ科に属する淡水魚で、朝鮮では大同江と鴨緑江（アムロク）、豆満江の中流に広く生息している。普通、体長は40～50センチ、長いものは1メートル強で、体重は30キロを越えるが、孵化後１年で30グラム、２年になれば１～1.5キロ、３年経てば３～４キロに至る。

体重が60キロを越えるこのコクレンが何歳になるかは知るよしもないが、とにかく淡水魚の中にこんなにも大きなものがあるとは驚くべきことであった。

委員長は、部隊の指揮官と炊事兵を集めてコクレンの調理法を詳しく教えた。

やがて食堂に集まった航空兵たちは、にぎにぎしくコクレンの料理に舌鼓を打った。

舌鼓を打ちながらも彼らは、初めて食べる特大型のコクレンの格別な味もさることながら、この寒い冬の季節にこんなに大きい奴がどうして捕まったのだろうかと不思議そうに語り合った。

けれどもこの珍しいコクレンが、金正恩委員長の無病息災を願って捕らえた人たちが委員長に贈ったものだということについては誰も考え及ばなかった。

そのようなわけを知ったら航空兵たちが恐縮し、ゆっくり料理を味わうこともできないだろうと、ことのいきさつを委員長は一切口外しなかったのである。

椒島の歓呼

2012年３月９日、朝鮮西海の某海軍部隊を視察した金正恩委員長は、乗艦して椒島(チョ)に向かった。

軍港を後にした艦が次第に速力を上げ始めると、指揮官が航行中は艦長室で休むようにと勧めた。委員長はわが身を案じてくれる指揮官たちを見回して、自分は海兵たちの近くにいて航行中の艦の戦闘動員態勢を確かめてみようと思う、兵士たちと共にいる時が一番楽しい、と言って司令塔に上がった。

委員長は、今この艦に乗って椒島へ向かっていると、1996年11月、乾坤一擲の覚悟をもって、逆巻く荒波をものともせず椒島の防御隊を視察した金正日同志のことが思い出されてならない、金正日同志が椒島へ向かった日、波がなんと高かったか、金正日同志は生前そのことをしばしば口にしておられた、と感慨深く語った。

委員長を島に迎えて、全島が感涙の海と化した。

目に涙をたたえて表敬報告を行う部隊指揮官の手を強く握った委員長は、西海岸の前方陣地を頼もしく守っている椒島の将兵に会いたくてやってきたと言って、金正日総書記が視察したコースをたどって防御隊を見て歩いた。

そして、椒島防御隊の将兵が社会主義祖国を守り、変わりなく誇り高く軍功を立てていくであろうとの期待を表明し、双眼鏡と自動小銃を記念品として贈り、彼らとともに記念撮影を行った。

撮影後、手を振って兵士たちの歓呼に応えながら歩き出した委員長は、兵営の向こうの山のふもとに群がって足を踏み鳴らしながら「万歳！」「万歳！」を叫んでいる軍人家族たちに気付

椒島防御隊の軍人家族とともにいる
金正恩委員長

き、目を輝かせて早く来るようにと手招きした。

委員長は、堰を切って歓声を上げながら駆け出し、子どものように委員長の手を取り腕にすがる彼女たちとも記念写真を撮った。

こうして島を後にすることになった委員長を、全島の軍人と家族は総出で見送った。

乗艦した委員長は、埠頭では海兵たちが歓呼し、島の峠などでも軍人やその家族、子どもたちが立って万歳を叫んでいる、われわれは彼らの姿が見えなくなるまで歓呼に応えようではないかと言って、長いこと手を高く上げて振り続けた。

翌３月10日、幹部たちを前にした委員長は、昨日西海岸の前方陣地を守る椒島防御隊を視察したところ、陸の人々や陸地を懐かしむ島の人たちの感情には特別なものがあることを実感したとして、こう続けた。

兵営の向こう側で万歳を叫んでいる軍人の家族たちを手招きして記念写真を撮ろうとしたところ、彼女たちは転ばんばかりの勢いで走ってきて私の手を取ったり、腕にすがったりし、誰もみな私のすぐ側に立とうとして押し合いへし合いしていた。私が椒島防御隊の軍人家族に囲まれて記念写真を撮ったという噂がいつの間にか峠の向こうに伝わり、私が帰る時には晴れ着姿の島の人たちが大勢道の両側に立って万歳を叫んでいた。

野戦車の後を追って走りながら涙に濡れて万歳を叫んでいた島の人たちの姿が、今もなおまぶたにこびりついてはなれない。……

人民軍の気概を示せ

2012年７月。

当時国の一部の地域は、かつて経験したことのない激しい台風に見舞われ、甚大な被害を蒙った。

暴雨による被害は、平安南道の价川（ケチョン）地区がとりわけひどかった。

一日中の集中豪雨で朝陽（チョヤン）炭鉱北側渓谷の堤防が崩壊し、猛烈な山崩れが生じた。

价川地区炭鉱連合企業所朝陽炭鉱地区と朝陽駅はさんざんに破壊され、駅に停車していた機関車も貨車もその設備もことごとく転覆し埋没され、貯炭場は崩れた山の下敷きになったかのような有様であった。

それに价川―朝陽間の鉄道数百メートルの区間は厚さ3メートル内外の石塊や泥土の層に埋もれ、レールは飴のように曲がって列車の運行は完全に麻痺してしまった。

价川地区には石炭が無尽蔵に埋蔵されており、朝陽炭鉱の石炭は价川―朝陽鉄道を通じて火力発電所や西海岸地区の重要工場、企業に送られていた。万一鉄道の復旧に手間取れば、経済の建設と人民の生活に由々しい弊害が生じることは目に見えていた。

実状報告を受けた金正恩委員長は、直ちに人民軍の某旅団長を名指しして、价川―朝陽鉄道を復旧し、土砂をきれいに処理せよと命令した。

当時、委員長は幹部たちにこう語っている。

今回の豪雨で全国各地がいろいろと水害を蒙った。とりわけ西海岸地区を襲った暴雨により、价川―朝陽鉄道の鉄路が数万立方メートルの土砂に埋もれて鉄道の運行は完全に停止したとい

う。……そこで私は、某軍部隊の旅団長に被害地域へ進出せよとの戦闘命令を下し、ここで、人民軍の気概を示せと強調した。

そのとき委員長が下した戦闘任務には、軍人は人民の軍隊としての高度の責任感と自覚、自分たちには水と空気さえあればそれまでだという覚悟をもって人民にささいな不便や負担もかけてはならない、という内容も含まれていた。

命令を受けた旅団は直ちに強行軍をもって早暁現場に到着し、ただちに被害の復旧戦闘に突入した。

彼らは、土砂崩れによる交通の遮断でブルドーザーやトラックなど重機械の到着が後れている状況で、担ぎ仕事で土砂を運び出し、悪戦苦闘して機動路を開いていった。

こうして１時間後には10数キロの環状機動路が開通して重機械の作業が可能になり、１日後には早くも土砂に埋もれていた駅構内と10数キロ区間の鉄道がきれいに整理された。

彼らは、36時間後には朝陽炭鉱鉄道周辺の４万立方メートル近くもの廃石を処理し、１万立方メートル強の盛り土と路盤の整理を行って

石炭積載貨車の運行を可能にし、３日後には周辺の整備を完了した。
　鉄道の路盤は水害を受けた以前よりずっと堅固になり、決壊した堤防もいかなる大水にもびくともしない構造物としてつくり直されたばかりでなく、数十世帯の住宅が補修または新築され、無残に破壊された幼稚園や託児所、学校などもきれいに修復されて様相が一新したのである。

軍人があっての最高司令官である

泳いでなりとも必ず行く

　2012年８月16日のこと。明日は茂島防御隊の視察に出かけると言う金正恩委員長の言葉に、人民軍の指揮メンバーは驚きあわてた。
　茂島は西南前線の最南端、最大のホットスポット水域にある小島である。
　茂島へだけは絶対に行くべきではありません、と一同は口々に理由を挙げながら頑強に反対意見を述べた。
　しかし委員長は、茂島がいかに危険な位置にあり、波が荒れ狂おうとも必ず行くから、無理矢理止めないで欲しい、どうしても船の用意はできないというなら、私は管をくわえ泳いでなりともきっと茂島へ行く、茂島には私が誰よりも愛する兵士たちがいる、最高司令官たる私が彼らに会いに行かないなら誰が行くのかと言った。
　委員長は西南方向の空を眺めながら、私が茂島へ渡って軍人たちに会い、一緒に記念撮影もすれば、彼らは敵のすぐ目の前で最高司令官に会えたことをいつまでも記憶に残し、いっそう熱心に軍務に励むだろう、と語った。

結局彼らは委員長に随行するほかどうしようもなかった。

翌17日早朝、一行は西海岸のある小さな港に到着し、数人の随員が茂島へ渡るに足る船を見つけようとしたが、それが思いのほかに難しかった。元来小さな港であり、夜も明け切らぬ早朝でもあったので、人影一つなく、どこにどんな種類の船があるのか見当がつかなかったのである。

そんな挙句、幸いにも早朝の作業に漕ぎ出ようとする１隻の船を見つけはしたが、それは27馬力の小型木船であった。

彼らが困惑して事情を報告したところ、委員長は漁労工や軍人たちが乗るほどの船なら私が乗れないわけはない、いらぬ心配はせずに早く船に乗ろうと言って、先に歩き出した。

やがて木船は港を後にした。

いかに危険であれ必ず行って見なければならない

操舵室の前に腰を降ろした委員長は、申し訳なさそうな面持ちで立っている随員たちに、茂島まではかなりの距離だからみんな甲板に座るがよかろうと言った。

それでも誰一人立ったまま動こうとしないので、委員長はすぐ側に立っている部隊指揮官の手を取り、主人である君までもがそんなことでは、われわれが落ち着いてはいられない、もしや君はわれわれを置いてきぼりにして一人で陸へ逃げようと思っているのではないのかと言って、豪快に笑った。

狼狽してまごまごする彼の様子がおかしくて、周りの人たちは大笑いした。

緊張をたちまちにしてほぐした委員長は、敵の島延坪(ヨンピョン)島はどれか、延坪島に最も近いのはどの島かと聞いた。

部隊指揮官は、大小の島の中の一つを指さして、向こうに見えるの

長財島と茂島の視察に出かける金正恩委員長

が延坪島で、そこから一番近いわが方の島は長財島（チャンジェ）ですと答えた。

彼の指さす長財島の方に目を凝らして、長財島、長財島と口ずさんでいた委員長はきっとして、長財島に向けてへさきを変えるようにと命じた。

部隊指揮官は驚いて立ち上がり、随行の軍指揮官たちもあわてて、いやそれはいけませんと反対した。

委員長は、敵が長財島と茂島を狙っていても構うことはない、長財島と茂島が危険なことを知らずに行こうと言うのではない、長財島には私が最も愛する兵士たちがいる、私が茂島へ行きながら長財島へは行かなかったとしたらその島の兵士たちはどんなに寂しがるだろうかとして、**「兵士たちがいる所ならいかに危険であれ必ず行って見なければなりません。兵士たちがあっての最高司令官ではありませんか」**と重々しい口調で言った。

これには反駁する余地もなく、船は長財島へ向けて航路を変えた。

小型木船に乗船して断行した西南前線の最南端、最大のホットスポット水域に位置する長財島と茂島の視察はこのようにしてなされたのである。

人民の軍隊として

2012年10月14日、人民軍の指揮メンバーを呼んだ金正恩委員長は、人民軍が合掌江（ハプチャン）の整備工事についで普通江（ポトン）の整備工事に骨身を惜しまずに取り組んでいるとたたえて、平壌市内の公園を近代的につくり直す工事も諸軍事学校に任せようと思う、組織・政治活動を綿密に行って、平壌市内の諸公園を最短期間内に最高のレベルで遜色なく一新しようと語った。

それからしばらく経った10月29日、再び彼ら指揮メンバーを呼ん

だ委員長は、人民軍が合掌江と普通江の整備工事を完了し、引き続き平壌市内の諸公園を近代的に一新する工事に着手したが、軍隊は人民にささいな迷惑もかけずに早く質的に終えるべきだ、私が常々強調していることだが、人民軍は人民のための工事を行ってはいても絶対に人民の支援を求めたり、ささいな負担をかけてもならない、その地域の水と空気さえ手に入ればそれまでだと考えるべきだ、さもなければ人民の軍隊だとは言えないとしてこう続けた。

「私が人民軍に合掌江と普通江の整備工事はもとより、平壌市内の諸公園を近代的につくり直す工事まで担当させたのには、人民軍が人民に喜ばれる有益な仕事をより多く行い、人民の軍隊としての本性、真面目を人民にはっきり知らしめて、軍民大団結の強化をはかることに重要な目的があります」

委員長は、人民軍が普通江の整備工事を行っていた際、平壌市民が軍人たちのために誠意の限りを尽くしたということだが、軍隊は人民を助け人民は軍隊を支援する軍民大団結こそがほかならぬわが社会の根元であり、真の姿である、軍隊と人民の間に互いに助け合い、支え合う信頼の気持ちが強くて心が通い合ってこそ、有事に際しては軍民の団結した力により百戦百勝しうるのであり、軍民大団結を果たせずには敵との戦いで勝利することはできないと強調した。

委員長の命令を受け即時工事に乗り出した人民軍は、合掌江と普通江の整備工事はそれぞれ6日間と9日間で、平壌市内の数ある公園の改造工事も25日間で成し遂げるという驚嘆すべき成果を収めた。

命令ではなくお願い

人民軍所属の某水産事業所に4隻の漁船を贈った金正恩委員長は、2013年５月27日、当事業所を現地指導した。

漁船の余りにもの素晴らしさに船の乗り手たちはみながみな有頂天になって自慢しており、他水産事業所の幹部や漁労工はもとより、近郷の住民までもがみな羨ましがっています、優れた漁船を贈って下さって本当に有難うございますと述べる事業所幹部の言葉に、満面に明るい笑みを浮かべた委員長は、漁労工たちが喜んでいるなら私もうれしい、性能の優れた漁船を操り大量の魚を捕って、年中切らさず最前線の軍人たちに供給することで、党から贈られた漁船が立派な実績をあげるようにしなければならないと語った。

委員長は、操舵室では魚群探知機を見てその性能についての質問をし、機関室では機関室のつくりはどうか、作業時の燃料消費量はどの程度か、最大馬力はどれほどかなどと具体的に尋ねた。

委員長は、１隻当たりの漁獲計画はどう立てているのかと聞き、漁船１隻当たり毎年1000トンは捕らなければ駄目だ、これは最高司令官の命令ではなくてお願いだ、なんとしても大量の魚を捕って軍人たちに供給しよう、計画を遂げたら必ず最高司令官に手紙を送ってもらいたい、吉報を待つ、と言った。

委員長は、この水産事業所で漁獲高を上げたら、漁業に必要な漁具の充当ならびに修理と整備は私がじかに手配する、兵士たちの食卓を潤すことだから積極的に援助する、ただ魚を大量に捕ってもらいたいとして、漁船の名称を五穀豊穣な秋のように、海でも魚の大豊年を迎えようという意味で「丹楓(タンプン)」とするのがいい、この名称には魚類を大量に捕って軍人たちに魚を存分に食べさせたいという私の期待と願望がこもっていると言った。

革命を行う目的

2013年９月２日、金正恩委員長は立派につくり直された長財島防御隊の陣地を視察した。

１年余りの間に3度目の視察を受けることになった長財島防御隊長は、激情にかられて表敬報告を行った。

長財島の装いが改まったが、気に入ったろうかと微笑んで尋ね、余りにも素晴らしくて何と表現してよいか分からないと答える指揮官の返答に満足した委員長はやがて、歓迎する防御隊家族の子たちを抱き上げて頬をさすり、名前は何と言うのか、年は幾つかと聞いてみたりもしては、立派に育てるようにと言った。

委員長は、元あった建物は一切取り壊されて新築なった兵営や住宅、陣地を見て回り、兵営が故郷のわが家よりずっと素晴らしく、生活上なんの不自由もなく過ごせるよう、すべてが立派に整っているので、島の軍人たちは大喜びしており、陸の軍人たちもとても羨んでいるという指揮官の言葉に大いに満足した。

新しい軍人教育室を見ては、軍人たちの情緒・感情にふさわしく立派にしつらえられており、備品もすべて申し訳ない出来栄えだと高く評価して、軍人家族の住宅に足を向けた。

委員長は軍人家族の住宅を見渡しながらまるで休養所のようだとし、居間や台所、洗面場も立派に整いテレビその他の家具調度ももれなく備わっていて実に素晴らしい、まず最高司令官に見せてもらいたいとして、まだ入居していないということだが、新居入りを早く行って、軍人家族たちが世に羨むことのない生活を存分に楽しめるようにすべきだと言った。

新築なった長財島防御隊の軍人家族の住宅を見て回る
金正恩委員長

委員長はそれぞれの新居を背景に軍人家族と並んで記念写真を撮った後、防御隊長の娘の独唱と独演をにこにこして聞き、拍手を送りもした。委員長は、長財島防御隊の兵営も住宅区域も以前の姿は完全に消えてなくなり、労働党時代の島の陣地、島の村として新しい仙境が出現したとして、こう言った。

「長財島のような島には、天地の開闢という言葉よりも天島の開闢という表現の方がもっと適しているようです」

委員長は、島の軍人とその家族たちが陸に住む人たちよりも好適な暮らしができるようにすべきだとして心を砕いておられた金日成同志と金正日同志の念願をまた一つかなえることができた、われわれが革命を行う目的もほかならぬここにあるとして、島の軍人や妻の親たちも喜ぶことだろう、われわれを信頼して息子や娘を任せた彼らにも、これで面目が立つことになったと言って喜びにひたった。

勇士たち墓の墓主

目を開いた海軍勇士

2013年10月中旬、金正恩委員長は、朝鮮人民軍某海軍部隊の艦が戦闘任務の遂行中思わぬ事故で、艦長以下全海兵が犠牲になったという報告を受けた。

委員長はそれがどうしても信じられず、当該の幹部たちに繰り返してことの真偽を確かめた後、海がいかに深くてもきっと勇士たちの遺体を一人残さず無条件引き上げ、葬儀を荘重に執り行うようにと命じた。

その後、勇士たちの墓の形成案を繰り返して検討し、墓の欄干の形式から墓石の色に至るまで事細かな指導を行い、墓に勇士たち一人ひとりの石写真を付けることにしようとして、彼らの写真を集めるようにと指示した。

こうして個人の写真が集められたが、各人の写真の大きさがまちまちでそれらの質も思わしくないのが問題ではあったが、それはさておいてやっと探し出した一軍人の写真は目を閉じているものだった。

部隊内にある彼の写真はそれ以外になかったので、やむなく目を閉じているその写真を委員長に送るほかなかったのである。

悲痛な思いで犠牲者たちの写真を一枚一枚見ていた委員長は、目を閉じている軍人に目を止めて凝視した。わが戦闘任務遂行の場であり兵舎だともいえた艦とともに犠牲になったので、写真を撮る機会も別段なく目を閉じた写真一枚しか残せなかった19歳の勇士……。委員長の胸はつぶれんばかりであった。最期の瞬間まで祖国から任された戦闘任務をいかに忠実に果たし、銃を取った兵士の真の生き甲斐と価値はどこにあるかを実践をもって示した海軍勇士たちの偉勲を世人に誇り高く示さなければと委員長は固く心に決めた。

じっと写真に目を凝らして何事かを考えていた委員長は側近の幹部を呼び、目を閉じている軍人の写真を見せて、去年この部隊を視察した際に撮った記念写真があるはずだから、そこで彼を見つけてみるようにと指示した。

部隊の指揮官たちがどうしても探せなかった軍人の写真は、このようにして委員長の許にあった記念写真の中に見いだされて世に知られることになった。

11月１日、海軍勇士たちの墓を詣でた委員長は、一人ひとりの石写真を注意深く見て、写真が実によく出来ている、今にも威勢よく起き上がり歓迎してくれそうだと言い、例の軍人の写真の前

戦闘任務の遂行中犠牲になった海軍部隊の勇士たちの
墓を見て回る金正恩委員長

で歩みを止めた。

委員長は墓碑に手を載せて彼の石写真に目を凝らし、格別な思いを込めて写真を入手し、きれいに仕上げた当時のことを振り返っているかのように、この軍人の写真は最初目を閉じたものしかなかったと、感慨深く述懐した。

勇士たちの革命精神は永遠に生きている

委員長は、墓地を軍部隊の衛戍区域内に定めたが、位置が実に優れている、勇士たちが自分たちの体臭が染みている軍港と、軍務生活を共にした戦友たちの姿、生命を賭して守ってきた祖国の海を毎日眺めることができるようになった、軍部隊の海兵たちも勇士たちの歓送を受け、その念願を心して海の戦闘任務に就けるようになった、このように勇士たちを安置すると、私の悲しみもかなりおさまると切々として語った。

そして祖国を守る道では犠牲も覚悟すべきだとはいえ、余りにも若くしてわれわれのもとを離れた勇士たちのことを思うと夜も眠ることができない、大きな抱負を抱き、偉勲への夢と希望を膨らませながら日々軍務に励んでいた勇士たちと、英雄になって帰ってくるとにこにこして故郷を後にしたわが子たちの犠牲の知らせに涙するであろう親たち、夫の帰る日を待ちわびていた妻たちのことを思うと胸がつぶれるようだ、私さえこうなのだからご両親やご夫人たちの悲しみはいかばかりだろうか、と顔を曇らせて言った。

勇士たちの墓をじっと見つめていた委員長は、墓碑に墓主が明記されていないが、この墓の墓主には最高司令官である私がなろうとして、「……**墓碑に『墓主　朝鮮人民軍最高司令官　金正恩』と明記することです。墓碑に私の名を入れると、私の気持ちが少しは和らぐでしょう**」と言った。

委員長は、ここに横たわる勇士たちはみな私の戦友、同志だ、今後とも最高司令官とともに金日成同志と金正日同志の畢生の念願をかなえていくべき彼らが二度と帰らぬ不帰の客となったが、戦士は祖国の命令をいかに貫くべきであるかを誇り高い犠牲をもって示した、祖国の海を守る道で貴い生命を惜しみなく捧げた勇士たちの革命精神は永遠に生き続け光を放つであろう、最期の瞬間までわが持ち場を固く守り、生命を賭して戦闘命令を遂行した勇士たちの偉勲と貴い内面世界を、軍部隊の海兵はもとより全人民軍将兵が見習うべきだと強調した。

軍人たちとの約束

2014年５月のある日、大城山総合病院を視察し、立派に整えられた病院の処々を見て回った金正恩委員長は、戦闘訓練中負傷し入院している軍人たちに会ってみようと言った。

幹部たちは、まだ全癒していない患者たちの姿を見せるのはどうしたものか、いらぬ心配をかけるべきでは、と思い、後日会ってくださるようにとの意向を述べた。

けれども委員長は、私がここまで来て会って見もせずに帰ると、彼らはひどく寂しがり、おそらく夜通し私のことを思いおちおち眠れもしないだろうと言って、入院室に向かった。

委員長は入院室に入り、負傷兵たちの様子を見回した。

最高司令官の思わぬ見舞いを受けて驚き、目を張っていた軍人たちは、はっと我に返り、あわてて敬礼した。

彼ら一人ひとりの手を取りながら、傷は痛くないかと気遣わしげに聞き、痛くありません、もうすっかりよくなりましたという元気な返答にも安心がいかず、いつごろになったら歩けるだろう

大城山総合病院を訪れ、戦闘訓練中負傷し入院している
軍人たちを見舞う金正恩委員長

と病院の責任幹部に尋ねた。４カ月もすれば歩くことはもとより走ることも問題なく、義足さえきちんとしたものをつけたら跳躍も容易で、バスケットボールもできるという説明に委員長は、そうなればどんなによいだろうかと切々とした語調で言った。

委員長は軍の一責任幹部に向き直り、退院後この軍人たちをみな党学校で勉強させて政治幹部に育てようと言い、そのことを負傷兵たちにも約束してこう強調した。

君たちは軍服を脱ごうなどと考えてはならない。いいかな。軍服を絶対に脱いでは駄目だ。政治幹部には立派になれる。分かったろうな。

力づけているというよりお願いをしているかのような委員長の切々とした言葉に、軍人たちはこらえにこらえていた涙をこぼし、肩をふるわした。

祖国防衛の道で銃を手放さずに生涯を輝かせようと心ひそかに誓っていた切望も今はかなわぬ夢になったとして、彼らは傷の痛みよりも精神的な痛手に苦しんでいたのである。

激情にかられて感涙にむせぶ負傷兵たちをいつくしみ深いまなざしで眺めていた委員長は、この軍人たちが４カ月後には本当に歩けるだろうかと、病院の責任幹部に今一度尋ねてから、負傷兵たちに向き直り、力を込めて言った。

よろしい。何事であれ楽天性を失うことなく死をも覚悟してたくましく進んでいくのが軍事服務の道だと言える。４カ月が経ったら君たちは自分たちの足で歩いて私の執務室を訪ねて来なさい。私がじかに推薦状を書いて待っているから。君たちの将来はすべて私が責任を持って保障する。

委員長の深い慈愛に負傷兵たちはとめどもなく涙を流し、周りの人たちも目をしばたたかせていた。

わが党の娘、わが党の嫁

2014年12月８日、金正恩委員長は朝鮮人民軍第２回軍人家族熱誠者大会の参加者たちと共に朝鮮人民軍第２期第５回軍人家族芸術サークルコンテストに当選した軍部隊の軍人家族芸術サークル総合公演を観覧して、歴史的な演説を行った。

委員長は、私の愛する戦友の妻や母親であるあなたたちの熱烈な歓呼を受けて、わが党を固く信頼し従うあなたたちの汚れのない心情に感謝し、ひいてはあなたたちの非常な革命的熱意と革命的楽天主義を目の当たりにして受けた衝撃が余りにも強烈で、どうしても一言挨拶の言葉を述べたいと思い、ここに立ったと述べて出演者たちを熱烈に祝福した。

そして、あれほど剛毅で心温かく多情な頼もしいあなたたちこそ、ほかならぬわが愛する戦友たちの妻、偉大な朝鮮民族の将来を担って立つ若い世代たちの感情豊かな母親、銃を手にした夫と同じ塹壕で朝鮮革命を死守する信頼すべき革命の副射手、革命の永遠の炊事兵なのだと思うと、チュチェ革命偉業の勝利は確定的だといっそう強く確信するに至った、と感動にかられて語った。

委員長は続けて、われわれの革命的武装力は決して強力な現代的打撃手段を有しているがゆえに強大なのではなく、このように副射手たちが射手の夫を側近で手助けしているからこそ、人民軍はいかなる動乱の中でも微動だにせず党と革命を鉄壁のごとく防衛する、時代と歴史の前に担った自己の崇高な使命と任務を全うしているということを今更のように実感したと語った。

委員長は、あなたたちのまなざしから無言の期待の声を聞き、

あなたたちの信頼と期待を片時として忘れず、あなたたちの愛する夫や子たちが握りしめている銃、われわれの革命的武装力を、私は最高司令官として永遠の勝利一路へといっそうしっかり導いていかなくてはとの決心を固めた、あなたたちのように強靭な、偉大な女性革命大軍を有していることはわが党と祖国の大きな誇りであるとして、**「この世の何ものとも代えられぬわが戦友、あなたたちの夫や子女である人民軍将兵の生活を、わが党の娘、わが党の嫁である同志たちに全的に委託します」**と述べた。

委員長は、最後に、みなさんが元気でむつまじく、常に夫やわが子たちの力になってくれるようお願いします、朝鮮人民軍第２回軍人家族熱誠者大会の参加者たちとすべての軍人家族に戦闘的な挨拶を送りますと、熱い思いをこめて語った。

祖国と人民の誇らしい娘

2015年６月21日、金正恩委員長は超音速戦闘機女性操縦兵たちの飛行訓練を見るべく某飛行場を訪れた。

委員長は滑走路の上で女性操縦兵たちの離着陸単独飛行訓練計画についての説明を受けた後、訓練を始めるよう命じた。

委員長は、不時の状況に遭遇しても巧みに処理する彼女たちの飛行ぶりに感嘆し、あんなにも勇敢に訓練を行う様子を見ると実にうれしい、男たちさえ容易には操縦できない超音速戦闘機を年若い娘たちが単独で乗りこなすのは世界に誇るべき成果だ、なんとも感心なものだと高く評価した。

委員長は訓練の終了後、花束を贈られて喜びに目をしばたたかせる女性操縦兵たちの手を暖かく取り、世界的にも超音速戦闘機を操縦する女性航空兵を持つ国は数少ないが、この女性たちは単

超音速戦闘機女性操縦兵に会う金正恩委員長

独飛行を立派に行った、これは決して肉体的条件とか技術的準備が十分に整っているせいではなく、熱烈な愛国心、透徹した祖国守護精神に燃えて、わが党の訓練第一主義方針を思想的に受け止め、最高司令官の意図を忠実に支えてきた崇高な革命精神の表出にほかならないと語った。

そして、今日は最初の超音速戦闘機女性操縦兵たちが正式に生まれた日である、このニュースが伝われば全国とりわけ女性たちが大喜びするだろう、君たちこそ祖国と人民の誇らしい娘、不屈の女性革命家だ、と今一度高く評価し、彼女たちと並んで記念写真を撮った。

委員長は、随員たちに、わが子が超音速戦闘機に乗って社会主義祖国の空を守っていると知ったら、親たちはどんなに喜ぶことだろう、彼女たちを故郷のわが家へ帰宅させて今日の訓練で収めた成果を自慢するようにさせよう、航空軍司令官と政治委員が同行して、立派な娘を持つ親たちに私の挨拶の言葉を伝えてもらいたいと言った。

羅先の奇跡

人民軍は人民愛の新しい伝説を生め

金正恩委員長は、2015年９月17日、羅先市の水害復興建設を現地で指導した。

８月27日、重大な戦略的国防問題を討議する朝鮮労働党中央軍事委員会拡大会議において、羅先市の水害復興建設を人民軍が全的に担当し、党創立記念日以前に完了せよとの朝鮮人民軍最高司令官

羅先市の水害復興建設を現地で指導する
金正恩委員長

命令を下していた委員長は、建設の進行状況をわが目でじかに確かめ、軍人たちを激励すべく現地に赴いたのである。

委員長は、水害によってわが家を失い野外に投げ出されている羅先市民のことを思うと夜もなかなか眠れなかったが、今日こうして現地で、党の命令とあらば水火も辞せず決死貫徹せずにはおかない人民軍将兵の献身的な奮闘により、人民の住宅が雨後の筍さながらに建てられているのをじかにこの目で見ると、憂いも懸念も一切消えうせるような思いだと喜ばしげに語った。

そして、羅先市水害の復興建設は前例のない膨大な、力に余る戦いではあるが、私は人民軍を信じている、これまでもわが血と汗を惜しみなく捧げながら祖国と人民のために大いに尽くしてきた人民軍が今度も新たな奇跡を生むことにより、羅先市先鋒（ソンボン）地区を人民の桃源郷につくり変えなければならない、と言った。

委員長は、さらに、羅先市に在住している外国人が水害の復興を1カ月の間にやりおおせるなど絶対に不可能だと断言してはばからなかったということを伝え聞いた軍人たちが、建設をそれより早く終えて見せるとして昼夜を分かたぬ突貫工事に取

り組んでいるということだが、今度も不可能というものを知らぬ白頭山革命強兵の威力を改めて世界にとどろかせるべきだとし、人民軍は水害の復興建設で勝利の凱歌を高らかに上げ、わが党の歴史に今一つの人民愛の新しい伝説を生むことだと、大いなる信頼を表明した。

わが党に対する人民の信頼を守った

金正恩委員長の指示を現地でじかに受けて決意を新たにした人民軍部隊の力強い取り組みにより、1カ月の間に白鶴(ペクハク)洞地区には1300余世帯分の平屋造りの住宅が、その他の地域には500余世帯分の2、3階建ておよび平屋造りの住宅が建てられた。

2015年10月7日、委員長は装いを新たにした羅先市先鋒地区白鶴洞を再び視察した。

委員長は指揮官たち一人ひとりの手を取り、みなさんは党創立記念日以前に羅先市水害の復興建設を完了せよとの命令を立派に貫いた、その間の苦労は大変なものだったろう、私は新築なった住宅を住民の新居入りに先立って見ておけば気がすむと思ってやってきた、今日ここへ来る歩みは本当に軽かったと喜びにあふれて語った。

そして、軍人建設者たちがふるさとのわが家、郷里のわが村を新しくつくり直すような意気込みで水害の復興建設を実に立派にやり遂げた、この取り組みは人民に奉仕する人民軍の思想精神的・道徳的品格を一段と力強く誇示する過程であった、今残っていることは新居入りである、部隊は人々の引越しを手助けするなど復興建設の後始末をきちんと行ったうえで帰隊することだと強調した。

委員長は一幅の絵のように広がる白鶴洞住宅地区をにこやかな微笑をたたえて眺め、なんと素晴らしい光景だろう、これ以上に

羅先市先鋒地区白鶴洞（当時）の住宅を
見て回る金正恩委員長

喜ばしいことが果たしてどこにまたとあり、やりがいのあることがまたどこにあろうか、常々強調していることではあるが、人民のためのことより以上に重要なことはない、人民軍は党創立記念日以前に水害の復興建設を完了せよとの最高司令官の命令を決死の覚悟をもって貫き、党と領袖の権威、わが党に対する人民の信頼をしっかり守ったと高く評価した。

空のサックを背負って来たら空身で帰るべき

随員の一人が委員長に、水害復興建設の戦闘が始まった初日から軍隊と人民の間に繰り広げられた異例の「戦闘」について報告した。

軍隊への援護物資を運んできた住民と、それだけは絶対に受け取るわけにいかないと頑張る部隊の間の「戦闘」であった。

軍部隊は最高司令官同志の兵士は水と空気さえあれば十分だとして固辞し、住民は、暖かいオンドル部屋で委員長から贈られた白米に肉スープの食事を取りながら、自分たちの住む家を建てて

くれている軍人の皆さんに一碗のご飯ももてなせないこんなばかげた話がどこにあるのかと抗議し続けた。この「戦闘」ではどちらも負けようとしなかった。

軍人たちは、部隊の非常米まで水害地域の住民に送り、大水の引いた畑でまれに見つかるトウモロコシまで拾い集めて主たちに送り届けた。それに特別遮断所を設けて援護物資の搬入は一切許さなかった。

すると住民は、険しい山道を「迂回」したり、トウモロコシ畑を「匍匐前進」するなどさまざまな「戦術」を用いて部隊宿営地の周辺や建設現場に援護物資を置いて行った。時には、「資材」と上書きされた援護物資入りの段ボール箱を車に載せて「厳しい」警戒の目をくぐりぬけてきては何食わぬ顔をして下ろして帰るようなこともあった。すると軍人たちは、援護物資を積みなおしたり、部隊の車に載せて送り返す「戦闘」を行った。

援護物資はこのように部隊の宿営地や作業場へ、それがまた住民地区へと行き来したが、そのような「戦闘」の中で主の知れぬ援護物資が生じて部隊ではその処理に困惑したりもした。

白鶴洞の女性たちが目に涙を浮かべて追憶している餅についての話もある。

餅をついて部隊を訪れたがどうしても受け取ろうとしないので、兵営や作業場を行ったり来たりするうちに餅はこちこちに固まってしまったが、それでもあきらめるわけにはいかないとして、油を引いた鉄板上で一つひとつ焼いて持っていき、是非とも受け取って欲しいと涙ながら頼んだが、やはり承知してもらえず、結局餅はまた石のように固くなってしまった。

このような「戦闘」が連日続く中で水害の復興建設は進められたのである。

以上のような報告を受けた委員長は、工事期間軍部隊が住民から送られてきた援護物資を一切受け取らずあくまでも固辞したとはよくやった、軍隊と人民が互いに助け合おうと努めるそのよう

軍人たちの歓呼に応える金正恩委員長

な美談こそは捏造も偽作もできないわが国社会主義の真実の姿だとして、こう続けた。

「軍人たちが帰隊する際も人民に負担をかけることのないようにしなければなりません。空のサックを背負ってきたら、空身で帰るべきです。帰るときのサックが膨れていたら、人民の軍隊ではありません」

待った１時間30分

委員長は整然と立ち並んでいる住宅を見渡して、人民軍はそれこそ奇跡を生んだ、何という見事さだろうと賛嘆し、最高司令官の命令を決死の覚悟で貫いてわが党の尊厳ある権威を輝かせ、党への人民の信頼に立派にこたえた人民軍部隊に党中央委員会の名で感謝を送った。

委員長は、羅先戦域で発揮された人民軍軍人の偉勲を考えると胸が熱くなり、世界に向けて高らかに誇りたい気持ちを禁じえない、記念写真を撮っていくべきだ、このままでは後ろ髪を引かれて歩けそうにない、軍人たちを全員集めるには時間がかなりかかるというが、いかに時間に追われていても待つことにするから、彼ら全員を理想村を背景にしうる場所に集めることだと指示した。

記念撮影にただ一人の脱落者もあってはならないと言った委員長は、数万名の軍人が一人残らず集まるまで実に1時間30分も待って彼らとともに記念写真を撮った。

委員長が乗った車がいよいよ出発することになったとき、全将兵が涙で頬を濡らしながらその後を追って走った。

委員長は運転手に、車をゆっくり走らせなさい、軍人たちが傷を負わないとも限らない、と心配そうに言い、彼らが見えなくなるまで長いこと手を振り続けた。

現地指導に見る指導者の風貌

執　筆: 諸葛男

編　集: 安鉄鋼

翻　訳: 金時習

発行所: 朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社

発　行: チュチェ108(2019)年10月

ㄱ-1982160

E-mail:flph@star-co.net.kp

http://www.korean-books.com.kp

敬愛する最高指導者金正恩委員長は国の指導に乗り出して幾年も経たずに、この地に文字通りの日進月歩、人民の幸福が恍惚たる現実として目前に広がる、繁栄する新しい時代を現出させた。

朝鮮民主主義人民共和国
チュチェ108(2019)

ISBN 978-9946-0-1889-8
9 789946 018898